

令和4年度文部科学省事業

「発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業」

令和4年度 通級による指導 自立活動事例集



令和5年2月

香川県教育委員会

実践事例目次

【小学校：学習面・生活面・心理的な安定に関する課題への指導】

| | |
|---|----|
| 担任や保護者と連携し、「なりたい自分」になるために自己肯定感を育む指導 | 1 |
| 日常生活で姿勢や行動を調整しようとする意欲を高める指導 | 2 |
| 考えた合い言葉を状況に応じて般化できるように学級担任等と連携した指導 | 3 |
| 視覚と運動が供応する力を高め、指先の巧緻性を養う指導 | 4 |
| 感情をコントロールできる自分なりの方法を見つけ、家庭での実践につなげる指導 | 5 |
| 目と手の協応運動をスムーズにすることで、身体のコントロール力を高める指導 | 6 |
| 自分に合った学習方法で主体的に取り組むための指導 | 7 |
| 操作活動を伴う自作教材を活用し、自分でできる体験を多くするための指導 | 8 |
| 自己評価を可視化することで意欲化を図り、生活リズムを整える指導 | 9 |
| 児童が自分に合う方法を試し実践することで、読み・書きの抵抗感を軽減する指導 | 10 |
| 自分の気持ちを適切に表出し、他者の気持ちに共感するための小集団での指導 | 11 |
| 様子を表す言葉を視覚化し、語彙の獲得と活用を促す指導 | 12 |
| 手順表や補助機器を活用しながら自分に合った学び方で数の興味を高める指導 | 13 |
| ゲーム的要素を取り入れ、スモールステップで書くことへの意欲化を図る指導 | 14 |
| 書字に課題のある児童への指導 | 15 |
| 割り算に苦手意識がある児童へ筆算の仕方を動作化してコツを伝える指導 | 16 |
| 場面緘黙が見られる児童への、担任や家庭と連携した指導 | 17 |
| 書字障害の児童への漢字・ローマ字指導と SST の指導 | 18 |
| 児童とともに評価をして、目標の設定を行う「個別の指導計画」を活用した指導 | 19 |
| 感情をコントロールして時間を守った行動をするための個に応じた指導 | 20 |
| 物事を多面的に、ネガティブ思考をポジティブ思考に置き換えてとらえる指導 | 21 |
| 「話す」「聞く」「進行する」役割を体験しながらコミュニケーション力を高める指導 | 22 |
| なりたい自分像に近づくために感情をコントロールする力を育む指導 | 23 |
| 不安な気持ちを軽減する対処法を考え、実践につなげる指導 | 24 |
| 感情のコントロールが苦手な児童への指導 | 25 |
| 衝動的な言動がある児童への指導 | 26 |



【中学校、高等学校：学習面・生活面・心理的な安定に関する課題への指導】

| | |
|------------------------------------|----|
| 自立活動の目標や内容を設定するための実態把握チェックシートの活用 | 27 |
| 安心して登校し、活動に主体的に取り組むための指導 | 28 |
| 自身の長所を生かし、成功体験を積むことで達成感を味わえる指導 | 29 |
| 「できる」ことを増やし、自己肯定感を高める指導 | 30 |
| 時間を設定し、集中して活動に取り組むことができるような指導 | 31 |
| より良い行動のできる自分を目指そうとする意欲を高める指導 | 32 |
| 他人に必要なことを聞いたり、話したりすることが苦手な生徒への指導 | 33 |
| 好きなことや得意なことを話すことで主体性を育む指導 | 34 |
| 自分に合った方法で、板書やメモをとるための指導 | 35 |
| アルファベットカードや読みのルールカードを活用した指導 | 36 |
| 自己理解を深め、安定した生活を送り、就職に向けての準備を支援する指導 | 37 |
| 自分の話し方を認識し、聞き手に伝わる話し方の習得に向けた指導 | 38 |

【小学校、中学校：言語障害・難聴に関する課題への指導】

| | |
|------------------------------------|----|
| スモールステップで楽しみながら取り組む、発音と強調運動の指導 | 39 |
| 自分に合った話し方を見つけ、読んだり話したりする指導 | 40 |
| 興味のあることから、正しい発音や言葉の意味理解を深める指導 | 41 |
| 考えを整理し、読みや書きの力を高める指導 | 42 |
| 自己の障害認識を促し、担任と連携してコミュニケーション力を高める指導 | 43 |
| 自己理解と障害の受容を促し、コミュニケーション力を高める指導 | 44 |



小学校：学習面・生活面・
心理的な安定に関する課題への指導

| | |
|-----|-------------------------------------|
| 小学校 | 担任や保護者と連携し、「なりたい自分」になるために自己肯定感を育む指導 |
|-----|-------------------------------------|

- ★対象児童 低学年 (ADHD)
- ★対象児の特徴
 - ・気が散りやすいが、友だちの様子にもよく気がつき、優しく接することができる。
 - ・集中が続かず、不安で授業中に奇声を発したり、ドンドン音を立てたり、離席したりする。
- ★目標
 - ・自分がどうして声や音を出すのかを理解することができる。
 - ・困ったときに「先生、来て下さい」カードを提示し、不安を解消することができる。

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

① 「こんなときどうするの？」のミニブックを作る。

学級担任との日々の情報交換や連絡帳で、気になる行動や本人に気づかせたい行動などを「こんな時どうするの？」のミニブックにし、時間の経過や周りの様子、自分の気持ちを考える機会にしている。その子のしていることだけに目を向けず、本当はどうしたかったのか、どんな自分でいたかったのかを視覚化する。ロールプレイする中で、自分も周りもハッピーになれることを確認して、ニコニコ笑顔で授業を終えるようにしている。記録に残し、同じ場面でブックを見て少しでも行動調整ができることを願いながら、繰り返し指導を行っている。



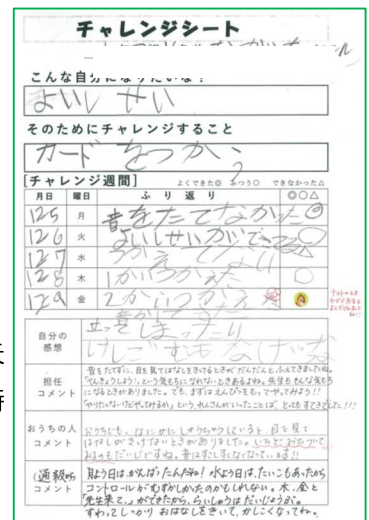
② 「チャレンジシート」を使って、般化につなぐ。

ミニブックで「こんな自分になりたい」と練習したことを般化するために研修で教えてもらったチャレンジシートを使った。することが分からないとき、聞き逃して不安な時に音を出すことに気づき、「先生来て下さい」カードを本人と作成した。学級でもチャレンジしていることを伝え、家族にも応援してもらっている。

[児童生徒の様子、成果]

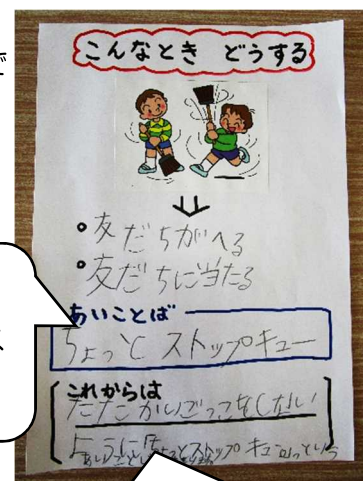
★ 児童が、同じ失敗場面があったとき、ミニブックを見ながら、「失敗は成功のもと」と唱えることがあった。「ぼく、すぐ忘れるから持て帰ってもええ？」と言うこともあり、繰り返し見て意識していることが伝わってくる。

★ チャレンジシートで共通理解が図れ、友だち、先生、家族が応援してくれるので励みになっている。行事などで日によってムラはあるが、自分が意識して生活できた日は、うれしそうに伝えに来ている。「ぼく、できる」と自己肯定感が少しずつ育っているのを感じている。



| | |
|---|-----------------------------|
| 小学校 | 日常生活で姿勢や行動を調整しようとする意欲を高める指導 |
| <p>★対象児童 低学年 (ADHD)</p> <p>★対象児の特徴←「特徴」と変えたいので得意なことや強みを加筆してくださいと幸いです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優しい人柄で、教師や友達に親しく話しかけて関係づくりをしようとする。 ・授業中に同じ姿勢を一定時間保持することが難しく、常に体や手を動かしている。 ・周りの状況を理解できずに、衝動的に動いてしまうことがある。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を意図的に動かしてボディイメージを高めることで、力加減を自分でコントロールできるようにし、日常生活でも姿勢や行動をコントロールしようとする意欲を高める。 <p style="text-align: right;">【自立活動 4環境の把握-(2)(4)、5身体の動き-(5)】</p> | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>※45 分間の指導の中で、集中トレーニングや視覚認知のトレーニングなどと合わせて、以下のような用具を使った活動を1～2種類行う。</p> <p>1 スクーターボード</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) スクーターボード引き←スクーターボードの上に座ってロープを握り、教師がそのロープを勢いよく引っ張ることで、平衡感覚や姿勢保持に必要な固有感覚を働かせる。 (2) 壁蹴り←スクーターボードの上につ伏せで乗り、足の裏で壁を思いきり蹴り、指先から足先まで体をピンと伸ばして前進することで、体の重心を感じ、平衡感覚を養う。 (3) レスキュー隊←スクーターボードの上に仰向けで乗り、首を持ち上げ、ロープを伝って後方へ進むことで、体幹を働かせ、協調運動と目と手の協応動作のトレーニングをする。 <p>2 平均台</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) ゆっくり歩く←バランスをとりながらゆっくりと歩くことで、平衡感覚を働かせる。 (2) パーツの色を言って進む←色を言ってから進むことで、考えてから動くことを体験する。 (3) マーカーコーンをよける、ボールを拾う←不安定になるので平衡感覚をより刺激する。 <p>3 トランポリン</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 頭でタッチ←真上に跳ぶことで体の軸を感じ、平衡感覚を刺激する。 (2) 矢印の方向を腕で示す←跳びながら一点を見続けることで眼球運動のトレーニングになる。 <p>※それぞれの活動の後に、初めに自分で設定した目標が達成できたかどうかを自己評価させるとともに、教師も評価し称賛することで、達成感を味わわせ次回の活動への意欲化を図る。</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが大好きな児童であるので、楽しみながら意欲的に活動に取り組むことができている。少しずつではあるが、行動する前に考えることができるようになってきている。 ・自分で決めた目標に挑戦して自己評価するという活動を繰り返すことで、うまくできている自分を実感して自信がもてるようになり、学習にも前向きに取り組むようになってきた。 ・SST と組み合わせて指導することで、自己の言動を振り返ったり他者との考えの違いを認識したりして、場面に合わせた言動を考えることができるようになっていきたい。 | |


| | |
|---|------------------------------------|
| 小学校 | 考えた合い言葉を状況に応じて般化できるように学級担任等と連携した指導 |
| <p>★対象児童 低学年 (ADHD)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 危険な場面に遭遇したとき、よく考えず衝動的に行動してしまう。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 危険な場面が描かれている場面カードを見ながら、予想されるこの後のいろいろな行動について考えることができる。 自分をコントロールするための合い言葉を考え、それを使いながらどのように行動するのかをロールプレイで表現することができる。 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①場面カードを見ながら、予想される続きの場面について考える。</p> <p>○自分で予想した危険な場面をできるだけたくさん考えることができるよう、受容的な態度で本児の考えを聞く。</p> <p>②合い言葉を考える。</p> <p>○自分で行動をコントロールするきっかけとなるよう、合い言葉を作る活動を設定する。</p> <p>○体を動かすことが好きな本児の強みを生かし合い言葉にはジェスチャーを付けようと提案する。</p> <p>③合い言葉を使いながら、立ち止まって考えるロールプレイを行う。</p> <p>○実際に掃除道具を使い、教師がたたかいごっこに誘うような場面を設定し、合い言葉を使いたくなるような状況を作る。</p> <p>○合い言葉を使い自分で行動をストップする場面が見られれば即座に称賛し、合い言葉を使おうという意欲を高める。</p> <p>○合い言葉を覚えていつでも使えるようになると、自分一人だけの場面でも危ない場面を避けられると伝え、日常生活への意欲化を図る。</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>★合い言葉を作る活動では、どんな言葉にすれば自分を止められるかなと問いかけ自分の言葉で作ったことにより、合い言葉が自分にとって一番使い易いものであると感じることができた。</p> <p>★合い言葉とロールプレイで学んだことを担任に伝えた。本児が危険な場面に出会いそうになった時には「合い言葉は何だったっけ」と声を掛けてもらうことで、クラスでも少しずつ立ち止まって考えることができるようになってきた。</p> | |



あいことば
「ちょっとストップキュー」

これからは「たたかいごっこをしないように『ちょっとストップキュー』のあいことばをまもります。」

| | |
|--|----------------------------|
| 小学校 | 視覚と運動が協応する力を高め、指先の巧緻性を養う指導 |
| <p>★対象児童 低学年 (ADHD)</p> <p>★対象児の特徴 入学時に「WISC-IV」と「フロスティック視知覚発達検査」の結果を保護者から提供された。入学後は手先の動きが不十分なことや集中力の持続時間が短いために、書字に時間がかかること、ゆっくり行動するため準備や片付けに手間取ることなどが在籍学級での困難さとしてみられた。他者とのコミュニケーションでは、話題がずれていくことはあるが、おっとりして人に嫌なことを言わないので穏やかに生活できている。</p> <p>★目標 ○ 視覚と運動が協応する力を身に付ける ○ 指先の巧緻性を養う ○ 集中力を高める</p> | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>○ 視覚と運動が協応する力を養う指導 指先に適度な力を入れて、どこに向けて線を書くかを考えることによって、点の上をきちんと通ったり、周りの線に当たったりしない適切な線を書く。書字の基本となる技能の習得に役立つ。 ・「迷路」「点つなぎ」 少し先の箇所を見ながらどこに向けて書くのか考える力を養う。「迷路」は周りの線に触れないこと、「点つなぎ」は点の上を通ることをめあてにする。どちらも鉛筆の先を紙から離さず書くよう意識づける。 ・「WAVES『見る力』を育てるビジョン・アセスメント(学研)」 集中してしっかり見る力を養うために、年間を通してドリルに継続的に取り組む。</p> <p>○ 指先の巧緻性を養う指導 ・「色紙ちぎり」「わっかつなぎ」 (「1日5分!教室で使えるコグトレ困っている子供を支援する認知トレーニング122」東洋館出版 宮口幸治) 指先を使うゲーム要素のある活動に楽しみながら取り組む。 ・「鉛筆や消しゴムの使い方」 (「気になる子どものできた!が増える書字指導ワークシリーズ」中央法規 笹田哲) (「勉強も運動も得意になる子どものビジョントレーニング」PHP 北出勝也) 指先でつまむ力や回転させる力など、書字に必要な技能を「鉛筆体操」として継続的に行う。消しゴムの使い方もこつがつかめるよう1年生の中期まで集中して行う。学級での活動に生かせるように取り組む。 ・「こままわし」 お楽しみタイムとして取り入れ、指先の巧緻性を高める。逆さゴマ、相撲ゴマなどいろいろ楽しめる。</p> <p>○ 集中力を養う指導 ・「消えたのなあと」(「1分間フラッシュカード視覚トレーニング編シリーズ」教育技術研究所) ・「どこどこカード」(「ワーキングメモリーをきたえるアタマげんきどこどこシリーズ」騒人社) 落ち着いてよく見て覚えたり、考えたりする教材で、ワーキングメモリーも鍛えることができる。「どこどこカード」は通級指導を受けている児童みんなが利用できるように、ラミネートをかけ、そのカードに取り組んだ後、裏に名前を書くようにした。次回カードを選ぶとき、自分が前にしたかどうか見分けがつく。</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の特性・困難さに応じて、計画し実施することができた。 ・児童が落ち着いて活動できる言葉遣いや態度、環境づくりを心がけることによって、児童がスムーズに通級教室に来ることができた。 ・通級での学びを在籍学級などでの実際の生活の場で生かせるような方策を考えていきたい。 ・児童の変容を見てそれに応じて柔軟に指導計画や課題を修正していきたい。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 小学校 | 感情をコントロールできる自分なりの方法を見つけ、家庭での実践につなげる指導 | |
| <p>★対象児童 低学年（発達性読み書き障害）</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを言葉で表現することが苦手である。 学習したときは覚えていても、時間の経過とともに忘れがちである。 学校では落ち着いて過ごすが、家庭ではイライラを周りにぶつけてしまいがちである。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> イライラを鎮めるいろいろな方法を試すことを通して、自分にできそうな方法に気づき、実生活に生かすことができる。 | | |
| 学習内容や指導方法、児童の様子等 | | |
| [学習内容や指導方法] | | |
| <p style="text-align: center;">学習活動</p> <p>★ イライラした時に いて考える。</p> <p>(1)イライラを爆発させた 時、させなかった時の 自分の気持ちや家族の 気持ちを考える。</p> <p>(2)ワークシートに考えを 書く。</p> <p>(3)いろいろな方法を試し てみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 呼吸法・イメージ法 魔法の呪文・数字法 スクイーズ 等 <p>(4)自分がやってみたい方 法を決める。</p> <p>★ 本時の活動を振り返 る。</p> | <p style="text-align: center;">児童の意識の流れ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">イライラを爆発させると、自分や家 族はどうなるかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">イライラを爆発させると、家族もイ ライラするな。自分もつらいな。</div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">いろいろやってみてイライラを鎮め る方法を試してみよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">たくさん方法があるな。どれが自分 に合っているかなあ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">〇〇と△△の方法をやってみよう。 うまくいくといいな。</div> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;">うまくいったら続けてみよう。うま くいかなかったら、違う方法でやっ てみよう。お母さんと一緒にやっ てみようかな。</div> | <p style="text-align: center;">支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや家族の気持ちを言葉や表情 でワークシートにまとめることで視覚化する。 （個）考えのヒントとなるように、本児や家 族の表情シールを用意しておき、ワークシ ートに貼るようになる。 気持ちを言葉で 表す手助けとなる よう、今までに使っ た気持ちを表す言葉 をカードにしておく。 絵カードを提示して、仲良しになるため には、お互いの気持ちが接近することが必要 であることを分かりやすくする。 （評）自分がやってみたい方法を決めるこ とができる。（発言・ワークシート） 意欲を高めるために、シールを用意してお き、うまくできた時には「イライラ退治日記」 にうまくいった方法を書くとともに、ノート にシールを貼ることを伝える。 <div style="text-align: right;">  <p>表情と気持ちシール</p> </div> |
| [児童の様子、成果] | | |
| <p>★ 表情シールや気持ちを表す言葉を選択肢の中から選ぶ活動が続けることで、少しずつではあるが、自分の気持ちを言葉で表現することができるようになってきている。</p> <p>★ 学習したことを「ハッピーノート」に残していき、怒りをすぐ爆発させてしまいがちだが、怒りを鎮める努力をしている母親にもノートを見て頂いたり、本児と一緒に取り組んで頂いたりすることを続けていきたい。</p> | | |

| | |
|-----|--------------------------------------|
| 小学校 | 目と手の協応運動をスムーズにすることで、身体のコントロール力を高める指導 |
|-----|--------------------------------------|

★対象児童 低学年（ADHD・視覚機能や体幹の弱さ・書字の困難さ）

★対象児の特徴

- ・自分で決めためあてに向かって、最後まで頑張ろうとする。
- ・体幹に弱さが見られ、姿勢の保持ができにくいため、安定した文字が書きにくい。
- ・視覚機能にも弱さが見られ、画数の多い文字を正しく認識できず、文字も枠の中に収めて書けない。

★目標

- ・姿勢や身体部位を意識しながら動かすことで、身体の動きをコントロールする力を高める。
- ・ビジョントレーニングに取り組み、目と手の協応運動がスムーズにできる。

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容や指導方法]

① WAVES(見る力を育てるビジョン・アセスメント) (監修：竹田 契一、著者：奥村 智人、三浦 朋子) で、アセスメントをする。

見えにくい課題を選定し、児童や保護者に説明し目標を決め、整った文字を書くためには、安定した姿勢を基本にビジョントレーニングや手先の動きが大切なことを説明してから進める。

②体幹を鍛え、座った時の姿勢の保持ができるようにする。

◎繰り返し取り組めるよう、簡単なもので楽しみながらできるものを選ぶ。

- ・バランスボールに座り、50回から100回のバウンド体操
- ・30秒の片足立ち（開眼・閉眼）でバランス運動
- ・好きな音楽に合わせて足の開閉運動（カエル足や足パカ運動）

③ビジョントレーニングと目と手の協応運動をする。

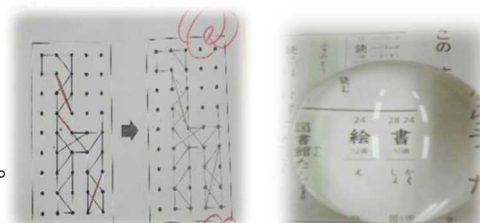
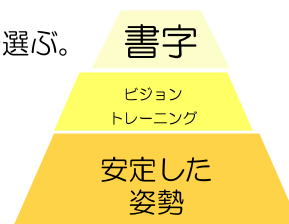
- ・点つなぎ ・コマ回し ・ペグアート ・ひも通し

④文字を書くための支援方法

- (1) 画数の多い文字はドーム型ルーペ（拡大）を使う。
間違いやすい文字は、ラウンドルーペで大きくして見やすいように示して、書こうという意欲につなげる。

(2) ノートを使う時に気を付けたこと

- ・ノートは児童が書きやすいマスのもので使用して、文字が収まるようにして書く抵抗を減らす。
- ・算数のノートは、「左はしに線を引いて使う」というきまりがあるが、直線を引くことができにくいので時間がかかる。通級の時間にトレーニングとして、5ページほどまとめて長い直線を引く練習をする。



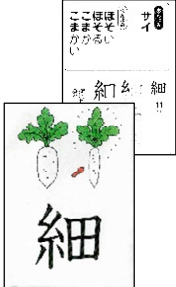
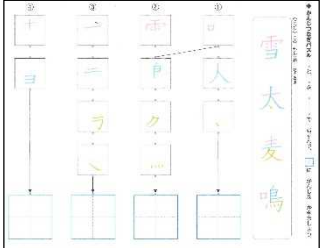
<点つなぎ>

<ドーム型ルーペで拡大>

[児童生徒の様子、成果]

★ バランスボールやバランス運動が好きで、楽しんで取り組んでいて、体幹も徐々に鍛えられた。記録が伸びてくると意欲も増し、短時間ではあるが姿勢を保持する時間も伸びてきた。

★ ノートに直線を引くことがなかなかできなかったが、左手でしっかり押さえること、始筆や終筆を目で見ることのポイントが分かると直線を引くことができるようになった。他の図形を描く時にも気を付けるようになった。

| | |
|---|--------------------------|
| 小学校 | 自分に合った学習方法で主体的に取り組むための指導 |
| <p>★対象児童 低学年 (ADHD・LDの疑い)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰にでも明るく話しかけることができる。 ・授業中に集中が途切れやすく、興味のないこと苦手なことはやろうとせず学習意欲が低い。 ・書くこと全般が苦手だが、特に漢字が苦手。読みにくい文字になり、筆順のまちがいが多い。 ・九九のきまりに気付き、九九の構成に意欲的に取り組むが、正しく唱えられず覚えられない。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った学習方法を身に付け、集中して取り組むことができる。【自活4(2)・2(1)】 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子 | |
| <p>[学習内容や指導方法]</p> <p>1 漢字の学習</p> <p>・「読み書き達成テスト」等を実施し実態を把握する。</p> <p>漢字の読みは、苦手ではないが覚えられず書くことができない。聴覚的支援よりも視覚支援の方が集中しやすい。反復練習よりもゲーム的な学習の方が集中が続く。</p> <p>具体的指導</p> <p>① 漢字イラストカード【意味から覚える漢字イラストカード】(かもがわ出版山田充著)を使って</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て漢字をあてよう。 <p>1年生の漢字をカードを覚えやすいように仲間分け(色・反対語等)してケースに入れる。上半分の絵を見て絵の意味から隠れている漢字を類推する。クイズのように正しく言えるまで繰り返す。答えた後には、文字の部分をきちんと見せて形や覚えるポイントを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て漢字を書いてみよう <p>2年生での新出漢字を、①と同じように絵を見ながらカードの枚数を減らして読んだり書いたりした。漢字の筆順はここでは問わないこととした。</p> <p>② 漢字つなぎパズル【すまいる式プレ漢字プリント 書字プリント(3)】</p> <p>目で見て覚える方を得意とするので、部分を組み立てて漢字を構成するワークシートに取り組みさせた。部分ごとに色わけされ、その順に書くと筆順が正しく書けるので楽しんで取り組んでいる。</p>   <p>2 九九の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九九の学習は楽しみにしていたが、聞いて覚える力が弱く、九九を正しく唱えにくいこともあり暗唱できずに意欲をなくす。九九の読み方が通常の数字の読み方と異なっているため音声を数字と対応することができにくく覚えられないようだ。 <p>具体的指導</p> <p>① 黒板やワークシートに図を使って九九を構成させ、数式の意味理解を図った。頑張った答えを見付けられたことを認める。→好きなキャラクターなどの合格シールなどで賞賛をした。</p> <p>② 一緒に唱える練習をするがどうしてもうまく唱えられない数(4よん→し 7なな→しち等)を今までの数の唱え方でも認め、楽しく身体を動かさせながら唱えさせた。→少しずつ覚えられるようになりやる気につながった。</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>★漢字の学習にゲームの要素を加えたり、習得のために反復練習から部品を組み立てて漢字を構成をするという練習方法に変えたことでやる気ができ、できた実感することが増えてきている。</p> <p>★九九も通常の数の読み方でもよいとして覚えることで苦手意識が少しずつなくなっている。通常学級の担任とも連携をとり同じ指導を続けている。</p> | |

| | |
|-----|------------------------------------|
| 小学校 | 操作活動を伴う自作教材を活用し、自分でできる体験を多くするための指導 |
|-----|------------------------------------|

★対象児童 低学年 (自閉症)

★対象児の特徴

- 人懐こく、大人や仲の良い友達と体を動かして遊ぶことが好きである。集団での初めてのことに不安が大きく、体育や行事への参加を拒むことがある。
- 平仮名や数の習得が緩やかで、一人で課題に取り組むことは難しい。内容や量を調節して、そばで教師が声をかけると、少しずつ前向きに取り組もうと頑張れる。

★目標

- 安心できる環境で教師と一緒に取り組むことで、達成感やチャレンジする喜びを味わうことができる。
- 分からないことを教師に聞きながら、45分間の活動に慣れていくことができる。

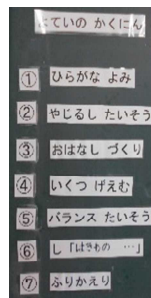
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

①学習の見通しがもてる予定表と板書構成

○座って行う活動と動きながら行う活動を小刻みに組み合わせ、学習の流れをパターン化する。

- 今することを意識して終点まで進めるよう、本児が1駅ずつ「バス」を動かしていく。
- 努力や伸びをタイムリーに称賛し、短冊カードに掲示する。再度、「⑦ふりかえり」で本児と共有し、できたことを話せるようにする。
- 花丸の中にさらに丸を描き足していき、継続しようとする意欲や自信を高める。



【予定表】



【板書の後半】

②ゲーム感覚で行えるカードのマッチング

○日常会話や授業で、例えば「いくつ」と「5」「やっつ」と「8」が結び付くようにする。

- (1)順序よく「ひとつ」から「とお」まで唱える機会を多く設け、言葉や言葉の並びに慣れる。
- (2)はじめは、暗唱できそうな数の範囲でマッチングを行い、徐々に数や読み方を広げていく。



【数といくつ】【マッチングカード一覧】

(3)今後の予定として、本児の実態に応じて、いろいろなカードの組み合わせで行う。

例「数」と「いくつ」、「数」と「漢字」、「日付けの読み方」、「神経衰弱ゲーム」、「借り物ゲーム（どこで、何を、いくつ、とる。）…聞く→覚える→探す（カードを読む）→マッチングして置く→聞いた文を話す」

[児童生徒の様子、成果]

- ★課題が一つ終了するごとに、自ら進んで「バス」を動かし、終点まで進めるようになった。
- ★活動全般を通して、分からないことや感想等のつぶやきの言葉が多く出るようになった。
- ★バランス体操での回数やタイムを記録することで、それを超えたいと目あてをもつようになった。

| | |
|-----|---------------------------------|
| 小学校 | 自己評価を可視化することで意欲化を図り、生活リズムを整える指導 |
|-----|---------------------------------|

★対象児童 中学年 (ADHD)

★対象児の特徴

- 活動を好む。特に、目新しいことには興味を強くもち、チャレンジしようとする。
- 生活のリズムが整いにくい。メディア機器の使用時間が長く、就寝時刻が遅くなることが多い。そのため、起床時刻が遅くなり、登校が始業時刻ギリギリになることがある。眠気から集中力が続かず学業に支障をきたしたり、感情的になって友だちとトラブルを起こしやすくなったりする。

★目標

- メディア機器の使用は就寝 30 分前に終わらせて 10 時までには就寝することを心がけ、生活リズムを整えようとする。

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

①保護者との連絡帳の最終ページに生活チェック表を作り、就寝時刻とメディア使用の終了時刻を記録させる。(登校日の前日になる日曜日～木曜日に記録。金曜日と土曜日は、翌日が休みなので記録しなくてよいことにしている。)



②相談して、時刻ごとにシールの色を決め、自己評価ができるようにする。

③通級指導の最初に、①に記録した前日の記録をふり返り、卓上カレンダーに②のシールを貼る。

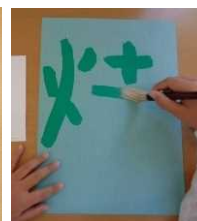
④遅くなった時には、眠気を感じることや忘れ物や計算ミスなど、学習中のミスが起りやすくなっていることに気付かせ、早かった時には、調子よく学校生活が進んでいることを実感させる。



[児童生徒の様子、成果]

- 頑張りシールが励みになるタイプなので、現在も喜んで取り組んでいる。連絡帳への記録をし忘れることもあるが、在籍学級の連絡帳や自由帳にメモしたり、覚えたりして、時刻を意識するようになった。学級担任に起床時刻を報告したりもしている。保護者も、自分で就寝時刻を気にかけるようになったと喜んでくれている。
- 卓上カレンダーにシールを貼っていることで、時折、自分で見返してふり返り、意欲を高めていた。遅い日が続くと危機感を覚え、奮起して早寝をしようと頑張る姿が見られるようになり、早寝ができた時には、嬉しそうに報告してくるようになった。
- 登校が始業時刻ギリギリになることは時々あるが、対人関係の大きなトラブルが減り、落ち着いて学校生活を過ごせている。
- 就寝時刻は、まだまだ 10 時半を超えることが多く、遅いときは 11 時を回っていることもある。また、メディア機器は寝る直前まで使用している。今後も生活チェックを継続し、さらに改善を図っていく必要がある。

| | |
|--|---------------------------------------|
| 小学校 | 児童が自分に合う方法を試し実践することで、読み・書きの抵抗感を軽減する指導 |
| <p>★対象児童 中学年 (ADHD、広汎性発達障害)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初見の文章は、一文字ずつ追いながら読むことがある。 ・助詞を正確に書き表すことができない。 ・テストのための漢字は覚えて得点できるが、その後、日常的に使うことは難しい。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読むことに対する抵抗感を軽減し、意味をとらえながら読むことができる。 ・「は」「を」「へ」を正しく選ぶことができる。 ・自分に合った方法で、漢字を覚えることができる。 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①音読</p> <p>○読みやすく、意味をとらえやすくなる方法をいろいろに試してみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字や読み方が分からない漢字には、自分でふりがなを書き込む。 ・読んでいる行を分かりやすくするため、読書補助具を当てながら範読を聞いたり、読んだりする。 ・言葉のまとまりが分かりにくい場合には、／を入れて、まとまりで読めるようにする。 ・言葉の意味が分かりにくい場合には、国語辞典やタブレットで意味や画像を調べたり、教師が説明を加えたりする。 <p>②助詞の学習 は を へ</p> <p>○操作活動を取り入れて、クイズ感覚で使い方を学べるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助詞を使う場面を、イラストを見て確かめる。 ・イラストを見て、単語カードと助詞(ペットボトルのキャップ)を選んで文章を作る。 ・絵を見て文章を書く。 ・作文等を書く前に使い方を確認する。 <p>③漢字の学習</p> <p>○漢字の細かい部分や筆順に着目できるよう、書き方を唱えたり、様々な筆記具を用いて書いたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字イラストカードで、形や読み方、意味等を確認する。 ・児童が書けるようになりたい新出漢字を取り上げ、漢字九九を使って読み方や意味、書き方を学習する。筆順動画で、繰り返し確認できるようにする。 ・砂の上を書く、水書、サンドペーパーを敷いた紙に書くなど、多感覚を活用して書く。 <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>★本児が読みやすくなる工夫をすることで、読むことに対する抵抗感が軽減し、内容をとらえようとする意識が高まった。</p> <p>★助詞には言葉と言葉をつなぐ役割があることが、体験的、視覚的にとらえることができた。「どっちだったかな」と考えながら、正しい助詞を使って文章を書くことができつつある。</p> <p>★何度も書いて覚えるのではなく、音声から書き方を覚えたり多感覚を使って楽しく書いたりすることが本児には合っていた。記憶に残りやすかった。</p> | |



| | |
|-----|-------------------------------------|
| 小学校 | 自分の気持ちを適切に表出し、他者の気持ちに共感するための小集団での指導 |
|-----|-------------------------------------|

★対象児童 中学年 (LD・ADHD)

★対象児の特徴

- ・友達と関わることが好きで、休み時間は友達と一緒に過ごしている。
- ・大勢の場では進んで発表する児童は少ないが、小集団では発言することができている。
- ・語彙が少ないため、言葉足らずで自分の思いをうまく伝えられない。
- ・相手の気持ちを考えずに接したり、周りの状況を察することなく行動したりすることが多い。

★目標

- ・気持ちを表す言葉を知り、気持ちを表す言葉を増やすことができる。
- ・自分の気持ちを認知し、言葉で表現し、気持ちの程度を把握することができる。
- ・他者の気持ちを推測し、共感することができる。

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容や指導方法]

① 気持ちを表す言葉

○気持ちを表す言葉がすくないので、表情カードからどんな気持ちか考え、気持ちを表す言葉を知る。

・「どんな気持ち？」・・・気持ちの言葉がたくさん書かれた「気持ちの言葉集」を参考にしながら、いろいろな表情の顔の絵にどんな気持ちなのか考え、ワークシートに書く。

・「気持ちでビンゴ」・・・気持ちの言葉をビンゴシートに書き、言葉と自分の体験したことを結び付けて話す。

② 気持ちの視覚化・数値化

○気持ちは抽象的で、目に見えなく、表現しにくいので、「気持ちの温度計」で気持ちを視覚化・数値化する。

・「気持ちの温度計」・・・うれしい気持ち、不安な気持ち、イライラした気持ちなどを気持ちを表す言葉を仲間分けし、自分の気持ちの強さを言葉とエピソードで表現する。

③ 他者の気持ちに推測・共感

○自分の気持ちを言葉で表現できるようになった児童が、友達の話聞いて友達や気持ちの大きさを推測し共感する。

・「気持ちぴったんこクイズ」・・・自分の気持ちを「気持ちの温度計」に表現したものを手がかりにし、気持ちを1つ選び、出題シートにその時のエピソードを書く。正解シートにその時の気持ちと程度を書く。順番に出題する。解答者は解答用紙に出題者の気持ちの種類と程度を予想して書く。

[児童生徒の様子、成果]

★ゲーム性のある活動を取り入れたことで、児童は意欲的に活動し、仲間と楽しい雰囲気の中でお互いの経験を伝えあったり、共感し合ったりすることができた。

★自分のことを知ってもらいたいという気持ちや相手のことを知りたいという気持ちが強まり仲間意識も高まってきた。

気持ちぴったんこクイズ出題シート

6月22日 4年 名前 _____

いつ どこで

【前のこと】 【やうえんちで】

だれと 何を

【家族と】 【学校コースター】

どうなった

【家族全員で乗ったおもしろいお祭り】

気持ちぴったんこクイズ正解シート

気持ちは? 【不安】

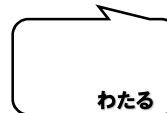
どのくらい? 【4】

気持ちぴったんこクイズ解答用紙

7月6日 4年 名前 _____

| | 名前 | 気持ち | てい度 |
|---|----|------|-----------|
| 1 | さん | うれしい | 1・2・3・4・5 |
| 2 | さん | 不安 | 1・2・3・4・5 |
| 3 | さん | うれしい | 1・2・3・4・5 |
| 4 | さん | 楽しい | 1・2・3・4・5 |
| 5 | さん | 楽しい | 1・2・3・4・5 |
| 6 | さん | よかった | 1・2・3・4・5 |
| 7 | さん | の気持ち | 1・2・3・4・5 |

| | |
|--|----------------------------|
| 小学校 | 様子を表す言葉を視覚化し、語彙の獲得と活用を促す指導 |
| <p>★対象児童 中学年（軽度知的障害、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症）</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習したことを忘れやすく定着しない。語彙が少なく、漢字だけでなく、ひらがなやカタカナの形や画数、問題の読み間違いなどをすることがある。 話を聞く時に、大事なことを聞きのがしてしまうことがある。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 主語や述語、5W1Hを確認するとともに、様子を表す言葉を考える。 様子を表す言葉を視覚化することで、語彙を増やす。 自分だけの本を作る活動を通して、学習や生活の中で使える語彙を増やそうと意欲的に取り組むことができる。 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>○集中トレーニングを行い、見たり聞いたりする力を鍛える。</p> <ul style="list-style-type: none"> よく見るトレーニング 絵の中から、指定された絵を見つけていく。かかった時間を競うのではなく、集中することが大切であることを確認しながら、集中して取り組むことができる。 よく聞くトレーニング 問題文を聞き、その内容についての質問に答える。聞き漏らしがあった時には、「もう一度言って下さい。」と問い直しができるようになってきている。 <p>○様子を表す言葉の意味を考えながら、絵に合う言葉を考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 様子を表す言葉のカードを見ながら、どんな時に使う言葉かどんな場面なのかを考えながら話をする。 いろいろな歩き方の動画をタブレットで撮影し、言葉と動作を結びつける。 「いっぽんばしわたる(五味太郎作 絵本館発行)」の絵に、自分で考えた言葉を付け加えて、オリジナルの絵本作りをする。 <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 様子を表す言葉のカードを使うことで、その時の行動やどういうときに使う言葉かを自分から進んで考える事ができた。自分の知っている言葉を使って説明し、それを教師が補足することで、少しずつ語彙が増えた。 ★ 主語と様子を表す言葉を使って、自分だけの本を作るという作業をすることで、喜んで学習に取り組むことができた。できた本をすぐに家に持ち帰り、家族に見せた。 ★ 今後は、言葉の持っている細かいニュアンスの違いを国語辞典を使って調べるなど、語彙を増やし、それを使うことができるように支援していきたい。 | |



| | |
|-----|-------------------------------------|
| 小学校 | 手順表や補助機器を活用しながら自分に合った学び方で数の興味を高める指導 |
|-----|-------------------------------------|

★対象児童 中学年 (LD 傾向)

★対象児の特徴

- ・ 読字や書字に困難さがあり、金銭への興味はあるものの、4桁、5桁の数になると読みや数の構成が不確かである。ワーキングメモリーに課題があり、金銭を数えているとき、10円玉の数を数えた後、1円玉の数を数えていると、10円玉の数を忘れてしまうことが多い。「200円」という数字を見て、頭の中では200円とイメージできているが、音声言語に出すときに間違えたり、他者とのやり取りで二重に勘違いをしたりして、数の構成についての理解も混乱することがある。

★目標

- ・ 自分から位の部屋を参照して手掛かりとしたり、貨幣を想起して読み書きを介さずに数を構成したりするなど、自分に合った方策を見つけることができる。

【自立活動 4環境の把握一(2)】

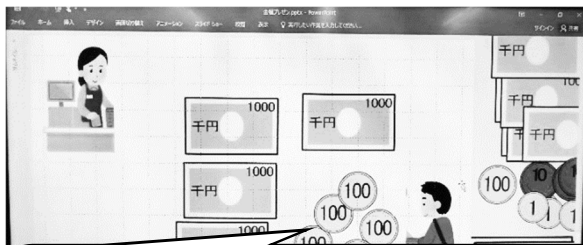
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

【学習内容】

買い物学習で、お客役や店員役になり、代金を支払ったり、お釣りを計算し渡したりする活動を行う。その後、金銭のやり取りについて、児童が板書し、教師や友達に説明する。

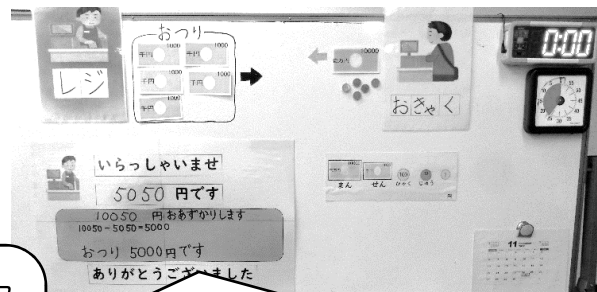
【指導方法の工夫】

ワーキングメモリーに配慮し、書画カメラやレシート付き電卓を用いて、児童が思考に必要な情報を参照できるようにしておく。児童に学習させたい中心課題に集中できるように、バーコードレジスター(玩具)を用いて合計金額を算出するなど、機器を補助的に活用する。



【電子黒板に提示したプレゼンテーションソフトの編集画面】

タッチパネルで、児童が編集画面を使って貨幣を動かして説明する。



【店員役をするときの手順書】

児童が自分がした計算を書き込んだり、貨幣操作の過程を記録したりする。



【計算の過程が残るレシート付き電卓】




【合計金額を提示したり読み上げたりするバーコードレジスター】

【児童生徒の様子、成果】

- ★ 貨幣を使って、4桁、5桁の数を構成できるようになってきた。困ったときには、自分が書いた手順書を見るなど、自分で考えた方法を次の機会に使う様子も見られた。

| | |
|--|-------------------------------------|
| 小学校 | ゲーム的要素を取り入れ、スモールステップで書くことへの意欲化を図る指導 |
| <p>★対象児童 中学年 (LD)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> • 書くことを嫌がる。ゆっくりと書いた平仮名にも誤字・脱字が目立つ。 • 作文が苦手で、動きが止まりじっとしている。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> • 平仮名や小3相当の漢字の読み書きがすらすらとできるようになる。 • 思ったことを2～3語文で書き表すことができる。 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①書字活動</p> <p>○音韻処理が弱く、正確に書くことや思いついたことを文字に置き換えることが苦手である。不器用で面倒がるためスモールステップで進め、達成した喜びが積み上がるようにする。</p> <p>(1) 1カード1音節のカードを読む。誤読カードのみを次回の課題とし、すらすらと読めるまで練習する。その後、五十音表を2分で書けるように練習する。</p> <p>(2) 平仮名で単語の読み書きを練習する。カードを使いクイズ形式でリズムよく進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 丸言葉カード・・・「り〇ご」を「りんご」と読み、言葉をまとまりで意識できるようにする。 • 言葉づくりゲーム・・・でん・だい・しゃ・しゅくのカードを組み合わせ「でんしゃ」「しゅくだい」を作る。音読後に書く。苦手とする促音、拗音を含む言葉を出題する。 <p>(3) 2語文で書く。主語・述語にあたる絵を文字に置き換えるワークシートで文を書く。助詞は予め書き込み、無理のない範囲で漢字も使う。書いた文を音読して終える。</p> <p>②思いを文字に表す活動</p> <p>○「作文に書くことが無い。」と話すが、絵が好きでその時の感情をイラストで示すことができる。想起したイメージを文字に置き換えて文を書く練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 連想ゲーム・・・テーマから想起する言葉をたくさん集める。 • ころの天気・・・今の気持ちを天気マークから選ぶ。その理由を話して文に書く。(参考文献/2分でできる子どものメンタルヘルスチェックシート 岡田倫代 学事出版) <div data-bbox="1038 1420 1423 1671" data-label="Diagram"> </div> <p style="text-align: right;">連想ゲーム ワークシート 記入例</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 平仮名表記が中心ではあるが、ノートに聞き書きができるようになった。また、文節や意味の切れ目をとらえて音読し、物語文や問題文の内容を大まかに把握できるようになった。 ★ 授業終末のふり返り文や絵日記を書く際、自分で内容を決めて文で書くようになった。漢字の練習中に自分なりの用例や熟語をつぶやくなど、前向きに学習に取り組むようになった。 | |

| | |
|---|----------------|
| 小学校 | 書字に課題のある児童への指導 |
| <p>★対象児童 中学年 (読み書き障害)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きに困難さがあり、特に漢字を覚えて書字することが苦手である。近くに手本があれば見ながら正しく書くことができるが、手本なしでは学年相当の漢字をほとんど書くことができない。また、黒板など手元から離れた文字を写すことは難しい。一方で、学習意欲は高く、指示されたことには一生懸命取り組む。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分に合った漢字の練習方法を見付けることで、漢字への苦手意識を軽減し、書くことのできる漢字を増やす。 <p>【自立活動 2心理的な安定-(3)】</p> | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容や指導方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 本時の課題の確認 <ul style="list-style-type: none"> 教室前面のホワイトボードに、課題となる漢字とその読み仮名を教師が書く。テストに出題される漢字を優先して練習することで、学習意欲が高まるようにする。 練習方法(1)～(4)を示し、一緒に練習する。 <ol style="list-style-type: none"> ホワイトボードの漢字を手本にして、そのすぐ隣に練習する。 ホワイトボードの手本を見ながら、水書版に練習する。 特に苦手だと感じる字を選び、砂文字で練習する。 ノートに書いて練習する。 本時の成果と次回の課題を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードの手本を消し、読み仮名のみ残してテスト形式にする。児童が書いた漢字を即時評価し、正解に丸を付けたり、間違いがあれば一緒に訂正したりする。書くことができた漢字を称賛するとともに、間違った漢字については、次回に重点的に取り組むことを確認する。 <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ホワイトボードや水書、砂文字を用いた経験がほとんどなかったため、高い興味関心を示していた。「おもしろい」と何度も発言しながら書く様子が見られ、精神的な負担が軽減したと考えられる。 ★特にホワイトボードが気に入ったようで、手本がすぐ近くにあること、間違えても手軽に消せること、ノートよりも大きく書くことができるので細部まで見やすいことなどを、好きな理由として挙げていた。 ★上記の方法で学習した漢字がテストに出題されると、ほとんどの漢字を正しく書くことができ、自信につながったようである。  | |

| | |
|-----|-----------------------------------|
| 小学校 | 割り算に苦手意識がある児童へ筆算の仕方を動作化してコツを伝える指導 |
|-----|-----------------------------------|

★対象児童 中学年 (算数障害)

★対象児の特徴

- ・九九や、たし算ひき算ができるが、手順に沿って、わり算のひっ算をすることが苦手である。
- ・位を意識して、わり算の商をたてることが苦手である。

★目標

- ・指で位を意識しながら、商のたてかたが分かり、商をたてることができる。
- ・わり算の手順を覚えることができる。

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

① どの位に商がたつか指一本で考える (例 $552 \div 2$)

$24 \overline{)5 \cancel{5} 2}$ ← 5の中に24はとれません。

$24 \overline{)5 \cancel{5} \cancel{2}}$ ← 55の中に24はとれます。とれる位に0をかく。

② 商を指二本で考える。

$2 \overline{)5 \cancel{5} 2}$ ← $5 \div 2$ は、 $2 \times 2 = 4$ で2がとれる。0の中に2をたてる。

$24 \overline{)5 \cancel{5} 2}$ ← 24に28かける

$\quad \underline{48}$ ← 55から48をひく

$\quad \quad \underline{72}$ ← 2をおろす。

覚え方

- たてる
- かける
- ひく
- おろす

③ 以下同じで指二本で商を考える。

$2 \overline{)5 \cancel{5} 2}$ ← 指二本で数字を隠し

$\quad \underline{48}$ ← $7 \div 2$ は 2×3 で3がとれる 3を上につける

～以下同じ～

[児童生徒の様子、成果]

- ・指本で余分な数字を隠すことにより、位を意識して商をたてることができた。
- ・指本で余分な数字を隠したことで、どの数から、どの数をわるかが意識できた。
- ・割算の順序を語り合わせて覚えることができた。

| | |
|--|----------------------------|
| 小学校 | 場面緘黙が見られる児童への、担任や家庭と連携した指導 |
| <p>★対象児童 中学年（場面緘黙）</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族、いとこ、特定の1名の友達と会話をすることができる。 ・ 上記以外の人がいる場所では、たとえ上記の人との共有空間であったとしても話すことができない。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初めての場所に自分から足を向けることができる。 ・ これまで話せなかった人の前でも緊張せずに過ごすことができる。 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 母親、妹（5歳児）とともに通級教室にある備品を用いて楽しく遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ トランポリン、バドミントン、スポンジボールによるボールの当て合い、ウノ、トランプ、すごろく、サイコロゲーム、黒ひげ危機一髪などから、やってみたいものを選んだ。 ・ 母親と妹の同行が得られない場合には、通級教室に来ることができない。 2 筆記型教材による学習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 遊具使用だけでは、飽きてしまう可能性がある。コミュニケーションに関するSSTや語彙を増やす教材を用いた学習をすることにより、指導効果を高めることをねらった。 ・ 本人が筆記型教材に取り組むことを了承し、指導可能範囲が広がった。 3 本人の要望に応える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 通級での学習に慣れて笑顔が見られ始めた頃、活動時間中に応援に駆け付けた担任と母親が教育相談的な話をしたことを本人が嫌った。そこで、担任には本人のいないところで母親と話をしてもらうように依頼した。 ・ 筆記型教材による学習ができることを、本人と母親とともに喜んでいたら、夏季休業を挟んで9月に通級の授業を行った際、筆記型教材を用いた学習に抵抗を感じていた。 ・ そこで、ボールなどを用いた学習に戻し、通級での学習に楽しく取り組めるよう配慮した。 ・ 本人が担任との通級での活動を一緒にしたいと母親に伝えたタイミングで担任に協力を要請し、一緒にボール当ての活動を楽しんだ。 <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通級開始後しばらくは、担任に付き添われて入室していたが、2か月ほど経った頃から一人で通級教室まで来て、母親や妹とともに笑顔で活動を楽しめるようになった。 ・ 通級教室内に私がいなくても母親に話しかけることができるようになった。 ・ 担任にも一緒に活動してもらいたいという希望を母親に伝えることができた。 ・ 放課後の運動部の練習に参加し、陸上における50m走のタイムと自分の名前を2年生の時の担任である記録の先生にはっきりと伝えることができた。2、3年生の時の担任と現担任、保護者らとともに、本人の成長を喜び合った。 | |

| | |
|-----|-----------------------------|
| 小学校 | 書字障害の児童への漢字・ローマ字指導と SST の指導 |
|-----|-----------------------------|

- ★対象児童 高学年 (ADHD・書字障害)
- ★対象児の特徴
- ・ 字の形を整えて書いたり枠の中に入れて書いたりすることが難しい。漢字を読むことはできても覚えて書くことが難しい。ローマ字の学習に関しても形をとらえたり、「n」「h」など細かな文字の違いをすぐに認識したりすることが難しい。
 - ・ 友だちと仲よくしたいと思っではいるが、自分の思いにとらわれて、友だちからの注意を素直に聞き入れられなかったり、素直に非を認められなかったりして、トラブルになることがある。コミュニケーションも稚拙で、言葉かけや注意の仕方も一方的であったり自分本位な言い方になったりする。
- ★目標
- ・ ビジョントレーニングや細かな文字を書くトレーニングを集中して行う。
 - ・ ローマ字入力に慣れて短い文章を打つことができる。
 - ・ 登場人物の気持ちになって友だちにアドバイスをすることで身近な問題を解決する。

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容や指導方法]

- ① ウォーミングアップ活動
 - ・ 点むすび・間違いさがし・水書き・小さな丸の始めと終わりの部分を結ぶ。
- ② 漢字タイム
 - ・ 5年生の今までの漢字を含む熟語の読みを単語カードで復習する。
 - ・ 漢字アプリで4年生の問題を復習する。
- ③ アドバイス名人になろう。
 - ・ A君・B君のトラブルの場面の対処の仕方について具体的な言葉や行動を考えることで、問題解決能力を養う。
 - ・ 選択肢をいくつか準備し、すぐに分からないときは一番近い気持ちを選ばせるようにする。
 - ・ 言い方などにも気を付けながらロールプレイすることで、実際の生活場面にも適切な言動が取れるようにする。
- ④ 一言反省をタブレットのローマ字入力で記録する。



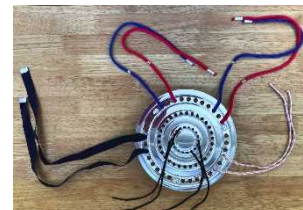
<参考書籍> かもがわ出版
SST ワークシート

[児童生徒の様子、成果]

- ★ 始筆と終筆を意識して小さな丸を書くことができた。算数のノートの字も整えて書くように意識するようになってきた。水書きでは見本をよくみて「とめ」「はね」を意識して自分の名前を書くことができた。
- ★ タブレットの漢字練習やローマ字練習は、自学自習ができ自分のペースで進められるのが本児にあっていてよかった。自信にもつながり自主勉強ノートも漢字練習を選んですることが頻繁になってきた。
- ★ 「わざとでなくても、友だちの物を壊したり、嫌な思いをさせたりしたら謝ることが必要だ。」ということをいろいろな状況で考えたが、なぜ謝る必要があるのか理解できず、素直に謝れない。教師の助言もきちんと理解できないため、クラス担任と連携をとって実際の友だち関係の中で解決するようにした。

| | |
|--|--------------------------------------|
| 小学校 | 児童とともに評価をして、目標の設定を行う「個別の指導計画」を活用した指導 |
| <p>★対象児童 高学年（自閉症スペクトラム症、多動性障害〈注意欠如型〉）</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと関わりたいという思いは強いが、相手との距離感や、会話での言葉の選択ミスにより不愉快な思いをさせてトラブルになる。 ・手先が不器用なため、コンパスや定規の扱いが思い通りにできなったり、単位の間違いなどのケアレスミスをしたりするので、算数に対して苦手意識がある。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期の自分を振り返り、後期に頑張ることや、得意なことを伸ばすことについて考えて目標を立てる。 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①前期の自分を振り返る</p> <p>○個別の指導計画ファイルの「指導目標（短期目標）」、「指導の評価（◎○△）」を見ながら振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「根気強く取り組み、最後まで成し遂げることができたよ。」「答えを書いた後、見直しができていないな。」 <p>②後期の目標を立てる</p> <p>○前期にできなかったこと、これからできるようになりたいことを一緒に考える。</p> <p>(1)「先生に言われなくても見直しができるようになりたいな。」</p> <p>目標その1 『見直しをする習慣をつける。』</p> <p>(2)「語彙が少ないから、友だちに上手に言うことができなくて、誤解される。本当の思いが伝わっていない。だから語彙を増やしたい。」⇒〈読書家だから語彙は豊富だよ。言葉の選択ミスでそうなるのではないかな？友だちとのやりとりの話を聞いていたらそう思うよ。〉</p> <p>「言葉の選択を間違っているんだな。そういうスキルを勉強すればいいんだ。」</p> <p>目標その2 『友だちとのやりとりを振り返り、言葉の使い方を見直すことができる。』</p> <p>(3)「困りごとを友だちや先生に説明する時、泣いてしまう。回数は減ってきたけれど。」⇒〈どうして涙が出るんだろう。〉</p> <p>「話をしようと思うと、そのことを頭の中でイメージして、それにはまってしまうから涙が。」</p> <p>⇒〈過去は変えられない。〉〈これから先のこと、解決方法のイメージを広げてみるといいのかな。〉〈自分にぴったりの作戦を一緒に見つけよう。〉</p> <p>目標その3 『伝えたいことを、相手にしっかり伝えることができる。』</p> <p>[児童の様子、成果]</p> <p>★前期を振り返ることで、自分の成長を確認することができ、自信にもつながっていた。</p> <p>★教師と一緒に振り返りながら目標を考えることで、目標を自分の事として意識し、「後期も頑張るぞ。」という意欲が伝わってきた。</p> | |

| 小学校 | 感情をコントロールして時間を守った行動をするための個に応じた指導 |
|---|----------------------------------|
| <p>★対象児童 高学年 (自閉症スペクトラム、ADHD)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解力が高く、授業内容の理解が速い。 ・友だちと話をすることが好きで、楽しく学校生活が送れているが、話すことに夢中になりすぎるあまり、すべきことが後回しになってしまう。 ・時間を意識して行動することが難しく、授業の開始時刻を守ることが難しい。 ・怒りの感情が溜まると、暴力的になってしまうことがある。 ・書くことが面倒だと感じていて抵抗感があるため、授業のノートはほとんど書かない。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべきことを優先し、決められた時間を守って行動ができる。 ・怒りの感情を適切な表出方法で消化または発散することができる。 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①スケジュールを決める 授業開始前に書く。ミニホワイトボードに日付と曜日（カレンダーで確認する）を書き、今の気持ちカードを貼った後、活動内容を決める。自分でスケジュールを作成することにより、意欲の向上と見通しをもつことに繋がると期待している。</p> <p>②体幹トレーニング 体幹が弱く、すぐに姿勢が崩れるので、お腹に力を入れることを意識して、バランスディスク上で両足立ちをするトレーニングをしたり、椅子にバランスディスクを乗せてその上に座り授業を受けたりする。</p> <p>③こんな時どうする？これって〇？×？ 本児が困りそうな場面や、実際に起こった事案を問題にして、自分はどのような言動をとればよいか、理由と共に考える。</p> <p>④トークカード「トーキングゲーム」「すきなのもっち？」で聞く力を育む 本児は話すことは得意だが、人が話しているのを聞くことが苦手（最後まで聞かずに話し始める）であるため、人が話している時は聞くこと、質問は全部聞いてからすること、うなずきながら聞くこと等を練習する。</p> <p>⑤生活上のスキルを身に付ける（蝶結びの練習） 蝶結びや袋の口縛りなど、日常生活スキルを獲得する課題に取り組む。</p> <p>⑥アンガーマネジメント 理解力のある児童であるため、怒りの感情のメカニズムから学ぶ。怒りの感情が芽生えたら、どのように対処すべきなのか考える。 ☆（参考資料「イラスト版子どものアンガーマネジメント／合同出版」）</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべきことを把握しているが、したいことを優先してしまう傾向は変わっていない。しかし、以前よりも時計を気にして行動しようとしている姿が見られるようになった。また、面倒くさそうにしながらでも、すべきことを優先して行動することができるようになってきた。 ・怒りの感情を不適切な方法で表出することが減ってきた。 ・人が話している時に、遮って話したり質問したりすることが減ってきた。 | |



【蝶結び練習】100均の道具で手作りした物。2本の色を変えたり、つまむ所にテープで印を付けたりしている。紐の長さや太さも変えてレベルアップを感じられるようにしている。

| | |
|---|-------------------------------------|
| 小学校 | 物事を多面的に、ネガティブ思考をポジティブ思考に置き換えてとらえる指導 |
| <p>★対象児童 高学年（ASD、ADHD）</p> <p>★対象児童生徒の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 物事に対して、こだわり、マイナスに受け止めることが多く、そのためにストレスがかかり、不登校傾向が出たり友達関係がうまくいかなかったりすることがあり、本来の力が発揮できない。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 一つの出来事について、いろいろな見方や考え方ができるようになる。 【自立活動 3 人間関係の形成-（3）】 情緒の安定、気持ちのコントロール、周囲の人との良好な関係づくり 【自立活動 3 人間関係の形成-（3）、2 心理的な安定-（3）】 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容や指導方法]</p> <p>① 相手を承認し合うゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「そうだねゲーム」をする。教師とペアで、周りのものの中から一つの物を選び、「これは〇〇です。」と一人が言うと、もう一人が「そうだね。」とうなずきながら目を合わせて返事をするゲームで、これをする中で、承認し合う方法を知り、気持ちよさを感じることができる。 <p>② ネガティブ思考をポジティブ思考にするゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時に、イライラした経験を教師に話してくれたことを称賛する。話すことで、そのことを客観視することができているからである。その上で、お相撲さんの絵を見せて、「この人はどんな人ですか。」と聞くと、「太っている。」と言う。「他の言い方をしてみたら。」と突っ込みを入れて、「強そう」「たくましい」という言葉を引き出していく。この例のように、一つのものごとに対して、違う見方をしていくゲームだと紹介する。カードには、表にはネガティブ思考の言葉を青で、裏にはポジティブ思考の言葉を赤で、書いている。例えば表に「目立ちたがり」裏に「積極的」など。自分が考えたいカードを選び、並べる。表の青い文字のネガティブな言葉を、ポジティブな言葉に言い換えて、裏返す。当たっていたら褒める。近い言葉でも意味が合っていたら見つけようとしたこと、見つけたことに対して褒める。 <p>③ 生活の場面で、イライラしてストレスを感じた時のことを思い出し、「相手の視点に立つことや相手の気持ちになる」ことを学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 例えば、本児の場合、音楽室でのトラブルを振り返る。相手の席から見た見え方を写真で撮り、自分から見た見え方と比べることで、相手の行動を理解するきっかけとした。そうすることで、相手の気持ちの理解にもつながった。「もしかして」という言葉を使って考えるとよいことを学んだ。 <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 何度かこのような学習を行うことで、「あ、ぼく今、ネガティブ思考をしているな。」と、ある意味、自分を俯瞰することができるようになってきた。友達との関わりの中で、こだわりが減り、トラブルが減ってきた。 ★ 表情が明るくなり、不登校傾向がなくなり、落ち着いて学級で過ごせるようになってきている。 | |

| | |
|--|---|
| 小学校 | 「話す」「聞く」「進行する」役割を体験しながらコミュニケーション力を高める指導 |
| <p>★対象児童 高学年 3 名 (ASD2 名・ADHD1 名)</p> <p>★対象児の特徴</p> <p>A 児 (ASD)：本来は明るく前向きな気質であるが、学級集団では発揮できていない。場面の状況を解せず発言してしまう。</p> <p>B 児 (ASD)：知的能力が高い。自分の思いを表現できず、他児の心情を考慮しない言動が見られる。家庭の発達障がい理解が深く、連携した支援が可能である。</p> <p>C 児 (ADHD)：絵を描くなど静的な活動が好きである。コミュニケーションに乏しく、課題が達成できない。</p> <p>★目標</p> <p>相手や状況に応じたコミュニケーションができる。</p> | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>3 人トークの SST</p> <p>「話し手」「聞き手」「司会者」など三者に分かれての 3 人トークを行う。その SST を通して、「話す」(能動)「聞く」(受動)「司会」(調整)それぞれのスキルを学び、役割を交代しながらそれぞれの立場に立ってその心情を理解する。</p> <p>トークのテーマ例として、「修学旅行」「好きな〇〇」「こんなことがあったらどうする?」「ルールを守っていない人がいたら…」「〇〇と言われたら…」など</p> <p>[児童の様子、成果]</p> <p>—A 児—</p> <p>3 人の中では明るいムードメーカーとなり、3 者の関係を円満に保ちつつ、コミュニケーション活動ができた。自分の思いを強く押しすぎることはあったが、「聞く」立場を経験し、学ぶことができたことで、やりとりがスムーズになる場面が増えた。</p> <p>—B 児—</p> <p>入級前「学校が楽しくない」と自尊感情の低下が認められていたが、「話す」立場になってスキルを学び自分の思いや考えを話すことができるようになったこともあってか、「学校が楽しい」と言うようになった。また、客観的な立場を経験することで、自分を冷静に振り返ることもあり、対人関係のトラブルが目立たなくなってきた。</p> <p>—C 児—</p> <p>コミュニケーションスキルの練習を繰り返すことで、心理的な安定が図られ、ノートを書いたり課題をやり遂げたりすることも増えた。ただ、目標を設定しプランニングして取り組む「実行機能」の弱さについては課題が残るので、さらなる個別の手だてが必要であると考えている。</p> | |

| | |
|--|---------------------------------|
| 小学校 | なりたい自分像に近づくために感情をコントロールする力を育む指導 |
| <p>★対象児童 高学年（自閉症スペクトラム障害）</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの立場の人の気持ちについて考えることが苦手で、自分本位の行動をとるため、トラブルにつながる。 ・他者に認めてもらいたいという気持ちがある。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の感情の理解を深め、自分にとって心地よい環境を知り、感情をコントロールできるようにする。【自立活動 2心理的安定—(1)】 ・得意なことや見直したらよいことを認識し、なりたい自分像に近づける言動をとることができる。【自立活動 3人間関係の形成—(3)】 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①自分を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入で、最近の自分の様子を振り返る。トラブルが起きた時は、『こんな時どうするの』というワークシートを活用し、その時の状況や気持ちを整理し、どうすればよかったかを一緒に考える。 <p>②順番を守り、人の話を妨げずに聞くソーシャルトレーニングをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き取りワークシート ・サイコロトーク <p>③野菜づくりのリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜の育て方をインターネットで調べて、管理職に伝える。 ・野菜づくりの仲間を募集する。 <p>(全校生向けの放送原稿・ポスターづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水やり・草抜き ・中学校の生徒会と協力して、収穫祭の企画・準備・実行 <div data-bbox="1177 1048 1353 1294" style="text-align: right;"> </div> <div data-bbox="1090 1301 1439 1467" style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>NPO フトゥーロ LD 発達相談センターかな がわ編著・かもがわ出版</p> </div> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>★トラブルが起きたときは、以前は自分のことばかり主張していたが、ワークシートを活用して整理することで、相手のことにも目が向けられるようになった。</p> <p>★興味がある話題に関しては、人が話し終わるのを待たずに口を挟んでしまうが、通級指導教室で行うSSTは、最後まで話を聞いて活動ができるようになった。</p> <p>★「めんどろ、しんどい」と逃げることが多かったが、野菜づくりのリーダーになり、自分から積極的にポスターを作ったり放送原稿を書いたりすることができた。栽培活動では、年下の児童に優しく接することができた。収穫祭では、中学生と一緒に司会をすることで、良いモデルを身近に感じることができ、中学校に向けての希望をもつことができた。</p> | |

| | |
|-----|-----------------------------|
| 小学校 | 不安な気持ちを軽減する対処法を考え、実践につなげる指導 |
|-----|-----------------------------|

★対象児童 高学年 (ASD)

★対象児の特徴

- ・不安な気持ちが強く、人前で発表したり、新しいことに取り組んだりするのが苦手。
- ・うまく友達関係をつくっていけるか不安で気持ちが乱れることがある。

★目標

- ① 自分の不安の原因や不安になっているときの状況を理解することができる。
- ② 自分に合った不安な気持ちの解消法を考えることができる。

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

① 不安な気持ちと行動の理解

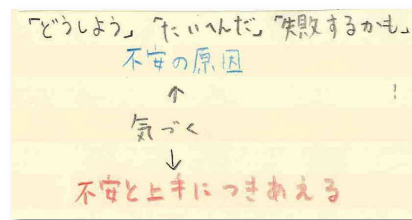
- ・どんなときに不安になるか書き出し、点数をつける。(写真1)
- ・不安なとき自分の体や行動はどうなっているか、例をもとに考える。(写真2)
- ・自分の考え方のくせを知る。(写真3)

| | |
|----|----------------|
| 1位 | 発表 (85) 点 |
| 2位 | はじめての人 (80) 点 |
| 3位 | はじめての場所 (75) 点 |
| 4位 | 高いところ (70) 点 |
| 5位 | くらいいとこ (50) 点 |

【写真1】



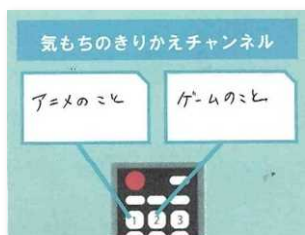
【写真2】



【写真3】

② 不安な気持ちの解消法の練習

- ・呼吸法、筋弛緩法、イメージ法等を知り、練習する。(写真4)
 - ・考え方の幅を広げる練習をする。(写真5)
 - ・困ったときに対応できる方法を考える。
- (あらかじめ頼る人を考えておく。学習した内容をまとめたノートを見る。)



【写真4】



【写真5】

[児童生徒の様子、成果]

- ・自分が困っていることを先生や親にすぐに話せるようになった。
- ・不安な気持ちを大きくしすぎて行動に制限がかかることが減った。
- ・無理に友達に合わせる必要がないことを理解し、自分の気持ちを大切に過ごせるようになってきた。

| | |
|-----|---------------------|
| 小学校 | 感情のコントロールが苦手な児童への指導 |
|-----|---------------------|

- ★ **対象児童** 高学年 (自閉症スペクトラム)
- ★ **対象児童生徒の特徴**
 - ・ 「できない」「(周囲より)遅い」と感じるとパニックになり、大声で叫んだり泣いたりすることがある。腕をひっかく、髪を抜こうとするなどの自傷行為も見られる。
 - ・ 学習に対する意欲は高く一生懸命取り組む。自信があれば一人でも楽しくできる。
- ★ **指導目標**
 - ・ パニックとなった時にクールダウンする方法を知り、自分を落ち着かせようとするができるようにする。 【自立活動 心理的安定一(1)】
- ★ **参考資料**
 - ・ 「イラスト版子どものソーシャルスキル 友だち関係に勇気と自信が付く 42 のメソッド」(合同出版)

[学習内容や指導方法]

通級指導教室の入り口に、鏡に自分の姿を映して服装チェックをする「服装チェック1・2・3!」の掲示をし、毎回自分の姿を見られるようにしていたところ、確実に実践し、服装を整えることができていた。

そこで、その横に「イラスト版子どものソーシャルスキル」の中で紹介されている「落ち着けのスキルセット」を取り出した教材を用意し、般化に繋がれるよう設置した。通級指導で毎回練習をして入室するようにしている。

「落ち着け」のスキルセット

- (1)口を閉じて深呼吸する。
- (2)数を数える。
普通に数えるので良いが、より確実に数えるために数カードを用意し、それをめくりながら数える。
- (3)「落ち着け」の自己会話を使う。
- (4)心地よい風景を頭のなかにえがく。



【「落ち着け」のスキルセット】



【数を数える】



【服装チェック 1・2・3!】

(1)～(3)までは問題なくできる。(4)はやや難しかったので担当教員と「〇〇浜で海を見ていると落ち着くよね。」などイメージを共有することで心地よい風景を考えることができた。担任や保護者とは通級のファイルを通して行っていることの共有ができるようにしている。継続することで特別意識しなくても自然に実行できるようになると良いと考え、取り組みを続けている。

[児童生徒の様子、成果]

- ・ 学校では、間違った時に、泣いたり叫んだりする時間が短くなってきている。
- ・ 教室でどうしても無理な時は別室でクールダウンしているが、深呼吸、数を数えるなど部分では行えているようである。

| 小学校 | 衝動的な言動がある児童への指導 |
|--|-----------------|
| <p>★対象児童 高学年（自閉スペクトラム症）</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを優先しすぎてしまうことで、友だちに言い過ぎてしまうことがある。 ・なかなか自分の非を認められない。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを想像して、どのような言動を取ることが適切か考える。 ・行動の結果、どのようなことが起こるか理解し、より適切な行動について考える。 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①気持ちを整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な呼吸法を学習の始めに継続して行う。 ・その際に、「いらいらしてしまったときに使うといいね。」等と助言するようにした。 ・背面黒板に掲示してき、いつでも呼吸法を確認できるようにしておいた。  <p>※学級での様子を担任に事前に聞いておき、一緒に考える内容を用意しておく。</p> <p>②行動や言葉がけについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イラスト2つを提示し、どちらのほうが、友だちとうまくいくかどうか選ばせてから、選んだ理由を聞いて状況の確認をした。 ・適切な行動・不適切な行動の両方について、相手の表情を書き込む・心の中のつぶやきを書くことで、行動の結果相手がどのように考えるか気づききっかけとする。 <p>③練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言い方や行動の練習をして、できたら称賛し、「実際に使っていこうね」と前向きに行動できるような言葉がけをする。 <p>④俳句作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見つけた、友だちとうまく関わるコツを俳句で表す。 ・俳句をハート型の画用紙に書いて教室に掲示し、常に意識できるようにする。  <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を言うことが得意なので、素直に人物の気持ちや結果を考えることができた。 ・練習したことが少しずつ言われなくてもできるようになっている。 ・児童の担任と児童の様子を共有し、できていたら双方から褒めるようにすることで、良い行動が少しずつ増えてきた。 <p>参考：イラスト版子どもの発達サポートヨガ（合同出版）、発達障害のある子への「自立活動」指導アイデア 110（明治図書）</p> | |

中学校、高等学校：学習面・生活面・
心理的な安定に関する課題への指導

| | |
|-----|----------------------------------|
| 中学校 | 自立活動の目標や内容を設定するための実態把握チェックシートの活用 |
|-----|----------------------------------|

★対象生徒 全学年

★作成目的

- ・通級開始に向けて行う面談時に、保護者や担任が本人の課題や特性をどのように捉えているか知るため。
- ・保護者や担任から聞き取ったり自分が見取ったりした生徒の実態や課題を、自立活動の項目に対応させて指導につなげるため。

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

| | | の実態チェック | 記入日 | 記載者 保・担・通 |
|--------------|------------------------------|---|-----|-----------|
| | | | | メモ |
| 1 健康の保持 | 1 生活のリズムや生活習慣の形成 | 生活のリズムや生活習慣 備食 清潔 体温調整 | | |
| | 2 病気の状態の理解と生活管理 | 病気の理解と改善のための自己管理 服薬 | | |
| | 3 身体各部の状態の理解 | 正しい姿勢 運動（微小粗大） | | |
| | 4 薬がいの解薬の理解と生活環境の調整 | 特性の理解 生活環境・支援の調整 | | |
| | 5 健康状態の維持・改善 | 健康を維持・改善 | | |
| 2 心理的な安定 | 1 情緒の安定 | 注意集中の持続 不安や緊張を軽減できる 思いと違うことに折り合いをつけて応じる 特定の物や常同行動から離れても安定している 自傷行為・他害行為がない | | |
| | 2 状況の理解と変化への対応 | 見通しを持ち日程の変更に対応できる こだわり 臆断がない | | |
| | 3 障害による学習上又は生活上の困難を認識・克服する意欲 | できないこと・不安なことにも取り組む | | |
| 3 人間関係の形成 | 1 他者とのかかわり | 信頼関係を築く 人とやりとりができる 指示を理解し行動できる | | |
| | 2 他者の意図や感情の理解 | 他者の意図や感情を理解し行動できる 自分の行動を振り返って表現できる | | |
| | 3 自己の理解と行動の調整 | 誤った行動を理解しやり直すことができる 思いを言葉や態度で伝えることができる | | |
| | 4 集団への参加 | 集団に参加できる 手順や決まりを理解できる 勝敗にこだわらない 会話の背景を理解し協力できる | | |
| 4 環境把握 | 1 保有する感覚 | 色んな物に触れ感触を受け入れられる 注視遠視、必要な音に注意をむける 身体の動き（前後左右上下回転）の変化に応じて動く | | |
| | 2 感覚/認知の特性の理解と対応 | 不快な刺激に対処できる 得意な認知方法で物事を理解できる(聴覚視覚) | | |
| | 3 感覚の補助/代用手段の活用 | 支援の周囲への周知 ツールを使って、状況を把握できる | | |
| | 4 周囲の状況の把握と状況に応じた行動 | 目的や状況に応じて身体を動かすことができる ICTなどのツールを使うことができる | | |
| | 5 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 | 片付けができる 時間月日季節の経過、時計・カレンダーの利用 事物の特徴を理解し仲間わけができる | | |
| 1 | 姿勢と運動・動作の基本的技能 | 姿勢を保って立てる、座れる ボールを使った運動ができる | | |

[成果]

- ・保護者との面談で、聞き取る内容を明確にできた。
- ・検査結果と照らし合わせて、指導内容を考えることができた。
- ・保護者に「自立活動」の内容の説明を具体的にできた。

| | |
|---|---|
| 中学校 | 安心して登校し、活動に主体的に取り組むための指導 |
| <p>★対象生徒 (ADHD)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校傾向、学校に来ても授業に入りにくい、相談室へ行くことが多い。 ・特定の話題を特定の教員や話しやすい友達と話すことを好む。 ・ゲームやタイピングに興味がある。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困ったときは、助けを求めることができる。 ・学校に登校できる回数を増やす。 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>① ソーシャルスキルトレーニング</p> <p>○毎回、テーマを決めて、自分の思いを表出させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用意する。 ・そのときの気持ちを書く。 ・困ったときの対処方法や折り合いの付け方を考える。 ・本時の振り返りをする。 <p>○注意したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の課題に合ったテーマにすること。 ・なかなか思いつかない場合は、こういう人がいたらと架空の人物について想像しながら書かせる。 「〇〇さんはこんな状態で困っているよ。アドバイスをしよあげよう」 <p>② 教科の復習や興味のあることをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットでゲーム感覚でできる数学の問題をする。 ・タブレットで興味のあるタイピング練習をする。 ・社会科の歴史を調べる。(図書室の本を使って)等 <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>★ 不登校傾向のある生徒であるが、毎回の通級を楽しみにしており、学校行事が続き、通級がなくなったときには、「〇回なくなった」と言うほどである。2学期後半は、学校でとても生き生きと過ごしている。しかし、教室では少しの授業しか受けておらず、相談室利用が多い。</p> <p>★ ソーシャルスキルトレーニングを通して、自分のことがよく分かっていて、人との関わりも自分なりに調整しながら関わっていていることがよく分かった。また、12月の通級の時間に学校で好きな時間を聞くと、「友達といろいろな話をする時間や好きなことをする時間」と答えたので、とても居心地よく相談室でも過ごせていることが分かる。ソーシャルスキルトレーニングは継続し、本人に自信を持たせたいと思う。</p> | <div data-bbox="927 728 1388 1473" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>テーマ 「苦手なことってみんなあるよね」</p> <p style="text-align: right;">名前 ()</p> <p>わたしは、(人付き合い)が苦手です。</p> <p>その場面に出くわしたら、こんな気持ちになります。 <i>自分の中で感情が落ちたとき、自分自身で 感じたことが、どうも思えて 悪く気分が下がる</i></p> <p>そのときは、こうしてほしいです。</p> <p>でも、どうしてもしなくてはいけないときは、 こんな気持ちで <i>(理不尽でも社会がひどい)</i></p> <p>こういう風に <i>(つづける)</i> しています。</p> <p>振り返り <i>人間関係も悪く、自分自身も悪く</i></p> </div> |

| | |
|---|--------------------------------|
| 中学校 | 自身の長所を生かし、成功体験を積むことで達成感を味わえる指導 |
| <p>★対象生徒 (ADHD)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味がわいたり、自分で目標が立てられたら、集中して取り組むことができる。 ・授業中に発表することについて、苦手意識を抱いている。 ・自尊感情が低く、自分の長所について述べるできない。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容について、明瞭な声で発表することができる。 ・自己を振り返り、長所について理解を深めることができる。 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①プレゼンテーションを用いて発表会</p> <p>○学習テーマを学校行事（屋島集団学習）に設定し、体験を踏まえてスライドづくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味を持った内容や体験について振り返ることで、発表を行うイメージを持てるようにする。 ・クイズをプレゼンテーションに織り交ぜることで、相手意識を持つとともに、やり取りを楽しむようにする。 <p>②リフレーミング活動</p> <p>(1) 発表の成功体験をもとに、苦手に挑戦できた喜びや達成感を抱けるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦手と感じている発表に自信を持たせるために、プレゼンテーションの工夫点や発表で意識したことを振り返らせる。 <p>(2) リフレーミング活動を通して、自己の短所への見方を変えて今後の生活につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の短所を紹介し、一緒に長所を考える。教師の長所を見つける活動を導入として行い、リフレーミング活動に円滑に取り組めるようにする。 ・教師の例を参考に、自己の短所をリフレーミングする。 <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 担任にプレゼンテーションを聞いてもらう機会を設けることで、通級での頑張りを認めてもらう機会につなげることができた。 ★ 興味を持った内容をどのようにスライドにまとめるか、意欲的に話し合うことができた。 ★ 発表に対して苦手意識を抱いていたが、クイズを作成するために活発に意見交流を行うとともに、明瞭な声で発表をした。また、集団学習で体験した活動について振り返りを充実させた。 ★ 短所に対して肯定的に考えることを初めて行った。また、級友の長所を見つけていきたいとの前向きな発言が見られた。 | |

| | |
|---|-------------------------|
| 中学校 | 「できる」ことを増やし、自己肯定感を高める指導 |
| <p>★対象生徒 (ADHD)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字を書くのが苦手である。板書が正確に写せない。 ・状況理解が不十分で、物事に集中できず、トラブルが多い。 ・学習などに自信がもてず、自己肯定感が低いと思われる。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習面等で、「できる」ことを増やす。入試に向けて、読める漢字を増やす。 ・絵カードを用いて、物事の状況把握のための視点を養う。 ・適切な進路を決定することができるよう、周囲と協力し、サポートする。 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容や指導方法]</p> <p>通級指導教室で週1時間の個別学習をした(国語の時間の取り出し)。「ぼくは…できない。」という言葉をよく言い、自分の長所を挙げるができない。毎時間、本人の思いをじっくり聞くことから始めた。また、「入退室時のあいさつやお礼が言える」、「タブレットなどを相手に見やすいように向きを変える」、「期末懇談では、帰り際に靴箱から母親に靴をとってあげる」、「パソコンが得意」など、できていることをその都度本人に伝えるようにした。</p> <p>[学習の流れ] …課題は1, 2個にしぼる。複数行う場合には、取りかかる順番を決めてもらう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 漢字の学習(読み漢字) <ul style="list-style-type: none"> 『5回読めたら卒業ルール』で、毎回50問ほど、漢字を見て読みを言ってもらう。5回正解だったものは、削除し、新しい漢字を加える。正解には、シールを貼ったり○を付けたりして可視化する。 2 コグトレなど 3 高校入試の面接練習や面接原稿の作成 <ul style="list-style-type: none"> 自分で文章にすることは難しいので、話してもらった言葉を書き出し、こちらでまとめた文をもとに、本人と相談しながら、文にまとめる。 4 興味のあることや心配なことなどをタブレットで検索したり、おしゃべりするフリータイム <p>○使用した教材</p> <p>『漢字コグトレ』・『英語コグトレ』・『1日1分教室で使えるコグトレ』 東洋館出版社 『SST 絵カード 状況の認知絵カード』～中高生版～ 株式会社エスコアール 等</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読みは、授業で使用しているワークの漢字がたくさん読めることがわかり、意欲的に取り組んだ。 ・進路については、保護者や学級担任の支援で、本人の希望する学校に見学に行くなどしており、少しずつ準備ができています。高校では、「友達を作ったり、～の授業が楽しみだ。」など、前向きな発言が聞かれるようになった。 ・交流学級での授業は、寝ていることが多く、学習面での不安や自信のなさは抱えている。 | |

| | |
|-----|-------------------------------|
| 中学校 | 時間を設定し、集中して活動に取り組むことができるような指導 |
|-----|-------------------------------|

★対象生徒 (ADHD)

★対象児の特徴

- ・集中力が続かず、全体の指示では伝わらないことがあり、取り掛かりに時間がかかる。
- ・英単語のつづりが覚えられておらず、正しく書くことができない。
- ・英単語の意味が覚えられていない。

★目標

- ・活動に集中して取り組むことができるようにする。
- ・英単語のつづりと意味が一致するようにする。

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

①ワードサーチ (単語探し) :

10分間で、表の中に隠れている単語を見つけて線を引く。比較的簡単な単語から探す。導入で行うことで集中力が増す。

| | | |
|--------------------|----------------|---------------------|
| after (～のあとに) | minute (分) | r f y a d r u t a S |
| answer (答える、答え) | mother (お母さん) | e J a p a n e s e n |
| brown (茶色) | movie (映画) | w W r S W r i t e a |
| chair (いす) | open (開ける) | S o m e t i m e s e |
| change (変わる) | Saturday (土曜日) | n m M i n u t e C M |
| Chinese (中国の、中国人) | seventeen (17) | A a O p e n d r H o |
| country (国) | sometimes (時々) | B n v t e n i e a M |
| curry (カレー) | student (学生) | r F i v e a r D n o |
| dinner (夕食) | these (これらの) | o h e T h e s e g t |
| five (5) | watch (腕時計、見る) | W S s C u r r y e h |
| here (ここに) | white (白) | n i C o u n t r y e |
| Japanese (日本語、日本人) | woman (女性) | L x C h i n e s e r |
| listen (聞く) | write (書く) | h c t a W A f t e r |
| mean (意味する) | | |

②辞書の早引き活動 :

5分以内で教科書に出てくる単語を辞書を使って調べ、品詞、意味、読み方をワークシートに書き写す。单元ごとの新出単語を扱うことでその单元での学習内容につなげることができる。

<ワードサーチ>

Let's use a dictionary!!

★英和辞典を使って、次の言葉の品詞、読み方、意味を書こう。

| | 単語 | 品詞 | 読み方 | 意味 |
|---|----------|----|-----|----|
| ① | wake | | | |
| ② | wake up~ | | | |
| ③ | rest | | | |


③本文書き写し :

5分間で教科書の本文を書き写す。1度学習した本文を書き写すことで、単語の練習にもつながられる。

<辞書の早引き活動>

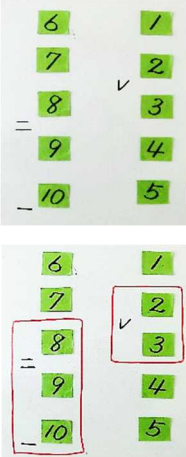
[児童生徒の様子、成果]

- ・ワードサーチでは、はじめは時間内に少ししか単語を見つけることができなかったが、集中して取り組むことにより、見つけるスピードが徐々に上がり、たくさんの語を見つけられるようになってきている。
- ・辞書の早引き活動では、1度辞書で調べた単語の意味や読み方がわかるようになっている。
- ・本文書き写しでは、書く速さが少しずつ上がっており、短い時間内での活動のため集中して取り組むことができるようになっている。また、単語の写し間違いも少なくなっている。

| | |
|---|------------------------------|
| 中学校 | より良い行動のできる自分を目指そうとする意欲を高める指導 |
| <p>★対象生徒（ADHD傾向）</p> <p>★対象生徒の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こだわりが強く、他人の助言を聞き入れずに自分が思うことを通そうとする頑固さがある。 ・気持ちの浮き沈みが激しく、安定している時はたいへん明るく振る舞い、学習活動にも積極的に取り組むが、不安定な時には、無気力になったり、不機嫌になったりすることがある。 ・SNS等の利用の仕方に課題がある。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況を正しく把握し、場に応じたよりよい言動を考えることができる。 <p>【自立活動 3人間関係の形成-（3）・6コミュニケーション-（5）】</p> | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>単元名「素敵な高校生になろう」…本生徒の意欲を喚起する単元名を工夫している。</p> <p>① 1週間の振り返り</p> <p>○困っていること、よかったこと、がんばったことなどを話す。</p> <p>よかったこと、がんばったことが言えたら、振り返りカードにその内容を書き、項目の数だけシールをはる。できてよかったこと、楽しかったこと、うれしかったことなどを意識させることで、自己肯定感を高める手立てとする。シールは、本生徒の好きなキャラクター等のデザインで自作している。</p> <p>② 今日の国語（週1時間、国語の時間に取り出しによる指導をしているため、所属学級で行われている授業の内容を短縮して行う。）</p> <p>○漢字の書き取りテスト</p> <p>国語の時間には毎回10問の書き取りテストをしている。通級指導教室では、2分程度、テスト範囲の見直しをさせることで、正しく書くことを意識させている。</p> <p>○今日の国語</p> <p>③ 「こんなときどうする？」の課題</p> <p>○状況の認知絵カードを見て、どのような状況か把握する。</p> <div data-bbox="917 1254 1420 1422" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">  <p>状況の認知絵カード 出典：状況の認知絵カード 中高生版1(エスコアール)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にも同じような経験がないか思い出させる。 ・人物の行動や表情に注目することで気持ちを想像させながら、状況を把握させる。 <p>○絵に示されている場にふさわしい言動を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者からも質問したり意見を述べたりするなどして、意見交換をしながら生徒の考えを引き出す。 <p>④ お楽しみ「I SPY ミッケ（小学館）」</p> <p>○指導者と一緒に絵本「ミッケ」を見る。</p> <p>最後の5分程度を「お楽しみ」の時間とし、生徒の好きな絵本「ミッケ」で「もの探し」をしている。この時間を楽しみに、意欲的に活動に取り組んでいる。</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>本生徒は、将来の目標と志望校を定め、学習への姿勢も2年時と比較して前向きになってきた。そこで単元名を「素敵な高校生～」とし、生徒が取り組みやすい絵カードを使って学習を進めることで、1年後の自分の姿を具体的に想像し、よりよい行動のできる自分をめざそうとする意欲が高まってきている。</p> | |

| | |
|---|----------------------------------|
| 中学校 | 他人に必要なことを聞いたり、話したりすることが苦手な生徒への指導 |
| <p>★対象生徒 (広汎性発達障害、ADHD)</p> <p>★対象生徒の特徴 本人は「自分から（友だち以外の）他人に（話を）聞くのが苦手」であり、グループ討議や他の人とのコミュニケーションを図る場面において困難さがある。</p> <p>★目標 ・自分の役割を果たすために、必要なことは関係する人に聞くことができる。 ・自分の考えを友だちでない人にも話すことができる。</p> | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>対象生徒の委員会活動における困りごとをもとに、目標への実践につなげる指導事例</p> <p>【事例】対象生徒が生徒会専門委員会で提出すべき書類が間に合わなかったこと。そして、そのことで担当教員から昼の校内放送で連絡されたが提出できず、指導を受けた。</p> <p>→通級指導の時間に以下のように指導して、本人の意識化を図る。</p> <p>(1) 状況確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ①書き方がわからなくて間に合わなかった。 ②女子の委員が書き方を示した紙を持っていて、本人は知らなかった。 ③昼の放送の指示で行く場所がわからず、担当教員に会う為に職員室に行っただけで会えなかった。 ④書類が間に合わなかったことはいけないことだ、と自覚している。 <p>(2) 上記の①～④について、どうすればよかったかを振り返らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①②女子の委員に自分から書き方を聞けばよかった。 ③昼の放送をしっかりと聞いて、行く場所を確認するとよかった。 ④書類を気にして、もっと早くから取り組むとよかった。 <p>(3) 次からどのように行動すべきかを考え、発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のすべきことが分からないときは、分かっている人に自分から聞く。 ・提出物の締切を意識し、余裕をもって早くから取りかかる。 ・放送や伝達があったときには、自分の役割に関するかどうか気を付けて聞く。 <p>[生徒の様子、成果]</p> <p>★実際に起きた困りごとから 1 週間後であったが、自分のできなかったことを見つめさせ、どうすればよかったか、今後どのようなことに気を付けていけばよいか等、自分の言葉で語らせた。その後の専門委員会の提出書類は期日に間に合うようになり、女子の委員に必要なことを聞くこともできるようになった。グループでの話し合いでは、ぶっきらぼうな面はあるが、自分の考えは話すことが増えている。課題を解決するための対話を通級担当と SST を通して実践したり、学級での発言時に教員や周りの友だちから声掛けをしてもらったりして、自分の考えを発言する機会は増えている。</p> | |

| | |
|--|---------------------------|
| 中学校 | 好きなことや得意なことを話すことで主体性を育む指導 |
| <p>★対象生徒 (LD傾向)</p> <p>★対象児童生徒の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・趣味が多く、得意なことや学校・家庭での出来事等について表情豊かに話すことができる。 ・読解力が低く、読み取ったり適切な語句を用いて文章を書いたりすることが苦手である。 ・持ち物の整理が苦手で、提出物を期限までに出不せないことが多い。特に2学期以降、週末課題やテストの際の提出物などが提出できなくなっている。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語彙を増やすとともに、音読を通して読解力をつける。 ・週末課題やテストの際の課題など、期限を守って提出できるよう計画的に取り組む。 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分について語る。 <ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなことや得意なこと、一週間の学校や家庭生活における出来事等を話題にして、自ら話すことができる。→ 文章で書くことができる。 2. 音読を通して読解力をつける。 <ul style="list-style-type: none"> ・絵本『生麦生米生卵』（ほるぷ出版 長谷川義史作、齋藤孝編）の早口言葉を取り入れて、ことばへの親しみをもつ。 ・国語科の授業で学習している内容を最初は段落ごとに教師と交代で、最後は全文を読む。 ・分からない言葉や漢字はタブレット端末で意味を調べ、理解したうえで再度音読する。 ・「いろは歌」や「竹取物語」の暗唱の練習をし、本番に自信をもって臨むことができる。 3. 語彙を増やす。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業で行われている漢字テストやそのプレテストを進度に応じて行う。(教科担任と連携) (漢字の意味の確認・間違っ覚えていた漢字の訂正・プレテストでの意欲付け) ・教材『漢字の学習』を用いて、音読みと訓読みの両方を押さえながら練習する。 ・『コナンの10才までに覚えたい難しいことば』を用いて、アニメ好きである本人の興味をそそりながら、文章の中でどう使われるかも合わせて覚える。 4. テスト計画の見直しや週末課題の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・期限を守って課題を提出できるか共に考え、通常学級で立てたテスト計画表を見直す。 ・前の週の週末課題の一覧表で提出状況を確認し、できたものにシールを貼り意欲付けをする。 ・その週の週末課題となるワーク類に付箋を貼らせ、範囲を明確にする。 <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動や家での様子についてはとても表情よく語ることができおり、また、音読や語彙力アップの活動にも前向きで、ことばへの親しみや声に出して読むことへの興味がうかがえる。 ・苦手なことの話題になると自分の気持ちをそらそうとし、課題提出に関してはまだ不十分であるが、学級担任や教科担任との連携を図りながら、少しずつ向上してきている。 | |

| | |
|---|-------------------------|
| 中学校 | 自分に合った方法で、板書やメモをとるための指導 |
| <p>★対象生徒（自閉スペクトラム症）</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大変まじめで、板書をすべて書きたいが、時間内に書き終わることができない。 ・音楽（歌唱）が大好きで、もっとうまくなりたいという意欲を持っている。 ・学級全体への指示では理解できないことがある。親しい友達に尋ねることはできる。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き終わらなかった板書は、写真に撮ったりノートを借りたりして書くことができる。 ・指示をメモしながら聞くことができる。 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①国語の漢文</p> <p>○1年次の内容理解が不十分であるため、通級教室には1年の教科書と基礎の学習（ワーク）を準備し、あやふやな点はすぐに振り返ることができるようにする。</p> <p>○レ点、一二点など、いきなり漢文を見て考えるのではなく、黒板に漢字に見立てた数字を書き、そこに返り点を打ち、規則を覚える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レ点・・・レ点の前後の数字を○で囲み、この文字がひっくり返ることを目で確認する。 ・一二点・・・二点の上の数字から一点の横の数字までを○で囲み、この部分がひっくり返ることを目で確認する。 ・両方が混じったもの・・・文字の上部から順に規則を当てはめていき、正しく読めるように確認する。  <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 通級教室では、はじめはメモを取るように促したが、慣れてくると自分でメモを取ることができるようになった。メモを書くスピードも少しずつ速くなってきた。メモができるようになったことで、安心して授業が受けられているようである。 ★ 教科によっては、穴抜きのワークシートに記入したり、タブレットに意見を書き込んだりと、学習活動が多様である。生活のリズムが安定せず、朝から授業に参加することは難しいが、授業に出られた時には、教科書にアンダーラインを引く、重要語句に赤丸をつけるなど、少しの時間でできるような印をつけておき、後で確認できるような習慣をつけさせたい。 ★ 一人1台のタブレットがあるので、時間内に書ききれなかった板書を自分のタブレットで写しておき、自宅でゆっくり書くように話してみたが、周りの目が気になり実施できていない。担当教員に写してもらえるよう依頼するなどして、支援を工夫していきたい。 | |

| | |
|-----|-----------------------------|
| 中学校 | アルファベットカードや読みのルールカードを活用した指導 |
|-----|-----------------------------|

★対象生徒 (自閉スペクトラム症)

★対象児の特徴

- ・ 英語の読み書きが苦手で、英語の基礎的な知識が定着しづらい。
- ・ こだわりや思い込みが強く、学習面においても、新しい内容を受け入れられるまでに時間がかかることが多々ある。

★目標

- ・ フォニックスの1文字1音のルールと、音の足し算によって音が変わることを学習し、ルール通りの単語を読んだり、つづりを暗記したり、正しく書いたりすることができる。

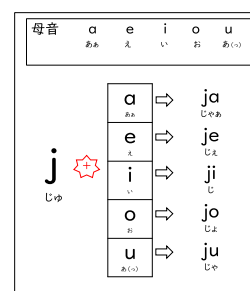
【自立活動2心理的な安定ー(1)障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

1 1文字1音ルールの学習

- ① フォニックスルールのチャンツを聞いて、1文字1音のルールに慣れる。
- ② 音を聞いて、そのアルファベットカードを選ぶ練習をする。
- ③ アルファベットカードを見て、その音を言う練習をする。



2 音の足し算による音の変化の学習

- ① 1子音+1母音の音の変化を、ルールカードを見て声に出して言う練習をする。
- ② 1文字ずつのアルファベットカードを自分で動かして2枚にし、その2文字での読み方を言う練習をする。
- ③ 音の足し算の一覧表(読み方なし)を見て、声に出して言う練習をする。

3 単語の読みへつなげる

- ① 「英単語学習ワーク」(「通級読み書きアセスメント～中学校版～」東京都教育委員会)を活用して、単語の読みとつづりにつなげていく。
- ② 「'a'で始まる単語テスト」で、ルール通りの単語を「①読む練習」「②音を文字にする練習」「③英語を聞いたり見たりして、日本語の意味を言ったり書いたりする練習」「④日本語を見て英語で書く練習」の4段階に分けて、単語を覚える練習をする。

[児童生徒の様子、成果]

- ☆「読み方にはルールがある」と納得でき、単語を覚える練習もスムーズにできるようになった。
- ★「'a'で始まる単語テスト」の一連の流れを行うと、単語を覚えて書くことができるが、暗記して次に生かせるまで定着しない。
- ★文法の学習をするときに出てくる、ルール以外の読み方をする単語に関しては納得がいかず、学習意欲が極端に低下する。

| | |
|--|------------------------------------|
| 高等学校 | 自己理解を深め、安定した生活を送り、就職に向けての準備を支援する指導 |
| <p>★対象生徒 (ASD・聴覚過敏)</p> <p>★対象児の特徴</p> <p>自分の感情を言葉にすることが苦手であり、困ったときにSOSを出すことができない。また就職を希望しているが、自分に何ができて何ができないのかを分かっておらず、自己理解が進んでいない。聴覚過敏に関して昨年度ようやく自覚が出てきたばかりで、対処方法がまだ手探りの状態である。</p> <p>★目標</p> <p>①自己理解を深めて、SOSを出せるようにする。</p> <p>②就職に向けての様々な準備を自ら把握し、計画を立てて実行する。</p> | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①自己理解を深めて、SOSを出せるようにする</p> <p>対象生徒と話をしていくうちに、すべてのマイナスの感情を「怖い」と表現することに気づき、感情を表す言葉を付箋に書きだした。「新しいクラスはどれ？」と付箋を選ばせると、「怖い」ではなく「不安だ」ということに気づく。「怖い」と「不安」では言われた人は感じ方が違うのだということも話し合った。また同じように自分にとって苦手なことを書きだして、嫌だと感じる順に並べ替えると「急な予定変更」が一番苦手だと気づく。それが生じないようにするには誰にあらかじめ伝えておけばよいのか…など、具体化・可視化することで自己理解とSOSの出し方を一緒に考えていった。また聴覚過敏に関しては、耳を覆う大きなイヤーマフを文化祭など校内がざわざわするときに試してみたり、小さなイヤープラグを授業中に試してみたりしている。</p> <p>②昨年度からアルプスかがわのプログラムに参加し、何が苦手で何が得意なのかをアセスメントしていただいた。その上で本校の進路指導部(就職)とも連携し、対象生徒ができそうな仕事を生徒や保護者に提示してもらった。さらに具体的に想像することが苦手なので、就職先を決める前に保護者と共に実際に職場見学に行き、その上で応募するかどうかを決定した。面接の練習なども一緒に行い、また入社試験の前には不安が高くなるので何度も面談を行った。内定をもらってからは就職先が「体力づくりを！」と目標を出してくれたので、現在はそれに向けて頑張っている。</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>進路決定をしなければならぬ最終学年になったが、通級1年目から少しずつ就職に向けた準備をしていたということもあり、様々な機関や先生方、保護者の協力のもとで、落ち着いて自分に合った就職先を決めることができた。通級開始当初は心理的な不調を自覚することができずに、身体的な不調(腹痛やめまい)で訴えかけてきていたが、今では自分から相談に来ることができるようになってきた。また「余暇を楽しむ」ことも一緒に考えたので、ストレス解消の方法も身につけつつある。卒業後の相談先を確保しつつ、卒業までもう少し、みんなで見守っていきたいと思う。</p> | |

| | |
|------|--------------------------------|
| 高等学校 | 自分の話し方を認識し、聞き手に伝わる話し方の習得に向けた指導 |
|------|--------------------------------|

★対象生徒 (自閉症)

★対象生徒の特徴

- ・時や状況を考えず、自分が話したいことや質問したいことを一生懸命話す。
- ・話したい気持ちが先行して非常に早口で話したり、話にまとまりがないため、聞き手に伝わりにくく、何度も聞き返されることで自身もストレスを感じている。

★目標

- ・話し方や声のトーン、話す順序などを考慮して相手に伝わる話し方ができるようになる。

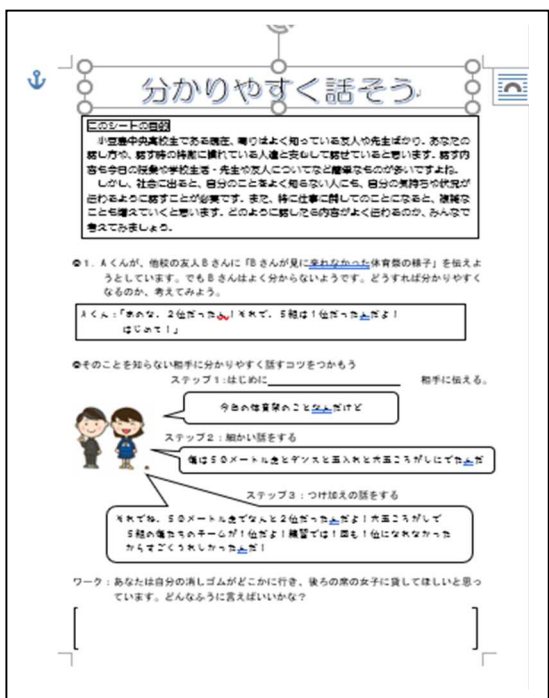
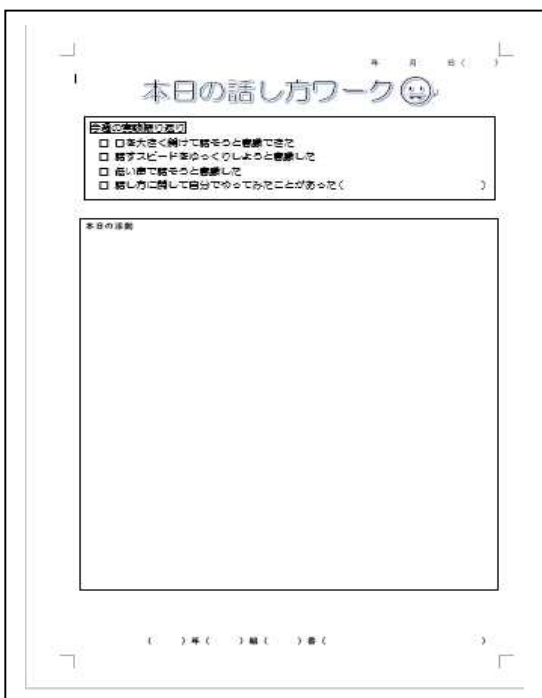
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容や指導方法]

- ①自分の話している音声をタブレットで録音して聞くことで、自分の話し方の特徴や速さを認識する。その後、話すスピードやトーンに気をつけて話した音声も同様に録音して、その違いを確認する。
- ②ワークシートを使い、自分の意図が伝わる話し方について考え、ロールプレイする。

[児童生徒の様子、成果]

実際に自身が普段話す様子を聞き、スピードが速いことに驚いた様子であった。ワークシートでは話す順序や展開を考えることにより相手に伝わりやすくなることを理解し、ロールプレイで定着を図った。日常生活への般化には時間がかかりそうではあるが、話し方ワークを毎時間行って定着させたい。

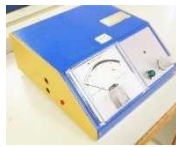


小学校、中学校

言語障害・難聴に関する課題への指導

| | |
|---|--------------------------------|
| 小学校 | スモールステップで楽しみながら取り組む、発音と協調運動の指導 |
| <p>★対象児童 低学年 （機能性構音障害・発達性協調運動障害）</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解力、思考力はあるが、「ラ行」「ツ」の正しい発音が定着していない。 ・枠内に文字が入らない等、手と目の協応が苦手であるが、視覚認知は比較的高い。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ラ行」「ツ」の正しい発音を定着させる。 ・目と指の巧緻性を高め、枠内に文字を書くことができる。 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①発音指導</p> <p>○単音での定着を最重視し、スモールステップで自信を持たせながらステップアップする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ラ行」の構音位置を、口腔内の模型を使って分かりやすく指導し「ラ」を定着させる。 ・「ラ」のつくことはカードで、一語ずつ丁寧に練習する。 ・「リ・ル・レ・ロ」「ツ」も上記と同様に、単音でしっかり定着した後、「単語→文→文章」とステップを踏んで、練習する。 ・教科書の音読で「ラ行」「ツ」に印をつけ、発音に気を付けながら練習する。 ・会話で自然な発音ができたときに、フィードバックして称賛し、定着できるように励ます。 <p>②微細運動（手と目の協応）</p> <p>○視覚認知は比較的できていたので、鉛筆の動きがスムーズになるように、楽しみながらできる練習を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点つなぎ…いろいろな動物や形が完成するプリントで、鉛筆をスムーズに動かす練習を積み重ねる。 ・線模倣…斜めや回転、曲線等手本の線を模倣することで、見通しを持って文字を書く練習をする。 ・マナー豆（株アイアップ）…豆つかみを楽しいバリエーションで行い、巧緻性を高める。 <div data-bbox="1043 853 1355 1081" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1139 1518 1385 1693" data-label="Image"> </div> <p>著作に関する情報（出版社や、監修者等の記入をお願いします。） 〈発売元 株式会社アイアップ〉</p> <p>[児童の様子、成果]</p> <p>★模型を使って分かりやすく構音の位置を伝えたことで、舌の位置を具体的に理解し、効率的に正しい発音を定着することができた。</p> <p>★文字を書くことにこだわらず、楽しさを工夫したことで、苦手な活動に根気よく取り組み、巧緻性が少しずつ高まり、枠内に文字を書くことができるようになった。</p> | |

| | |
|---|----------------------------|
| 小学校 | 自分に合った話し方を見つけ、読んだり話したりする指導 |
| <p>★対象児童 高学年 (吃音)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文の初めが苦手な発音の文字の場合、言葉につまってすぐに発声できないことがある。 ・話し出すとき、「えっと」「あー」などのことばが、繰り返し出てくる。 ・学級では、みんなの前で積極的に発言しており、自分の意見を言うことができる。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の話し方と向き合い、自分の話し方の長所や短所を知る。 ・自分に合った話しやすい話し方を見つけることができる。 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①発声練習</p> <p>○リラックスして声を出せるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舌の体操やストレッチをする。 <p>(ゆっくり読む、リズムをつける)</p> <p>②音読練習</p> <p>○「えー」「のぼす」「あの」「くりかえす」「んー」などの指示を書いたサイコロを使い、わざと吃る経験をし、吃ってもよいという雰囲気を作る。指導者も一緒に参加し、安心できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短い詩や、リズムや響きのよい詩、楽しくなるような詩などを教材として選び、1文ずつ交代しながらサイコロの指示に従って読む。 ・「あいさつをするときの文」「動物の動きを表す言葉を使った文」「スイーツ」など、どんな言葉が苦手か、どんなものが好きかなどを話しながら一緒に文作りをする。その文を使い、サイコロの指示に従って読む。 <p>③自分に合った話し方を見つける</p> <p>○教科書の文を読み、つまったり、苦しくなったりしたところについて、読みやすい読み方を一緒に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強弱をつける。得意な文字を強く、苦手な文字を弱く読む。 ・リズムをつける。 ・苦手な文字が読み始めにならないように、息継ぎをするところを考える。 <p>◎得意な言葉や読み方をいかせるようにする。励まし、称賛の言葉を伝える。</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 一緒に音読したり考えたりすることを通して、自分の話し方で苦手なことや得意なことを話すようになった。 ★ 吃って読んでいたところを、自分で読み方を工夫し、読みやすくなったとき、とても喜び、人前で話す自信につながっている。 | |

| | |
|---|-------------------------------|
| 小学校 | 興味のあることから、正しい発音や言葉の意味理解を深める指導 |
| <p>★対象児童 低学年（発音指導）</p> <p>★対象児の特徴</p> <p>保護者の主訴：「発音が悪く、言っていることが分からない。」 さらに説明が上手くできないので言いたいことが伝わらない」</p> <p>発音検査：カ・ガ行音→タ行音に置換（すいか→すいた ケーキ→テーキ ごはん→どはん）</p> <p>サ・ザ行音→シャ行音に置換（ばす→ばしゅ そば→しょば ぞう→どう）</p> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カ行音、サ行音を正しく発音することができる。（段階的指導） ・会話の中で、自分の言いたいことを相手に分かるように伝えることができる。 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>① カ行音「カ」の単音→単語「カ」のつくことば→「カ」が入った短文の練習 (Sインジケーター →)</p>  <p>② サ行音「ソ」を練習するにあたって、ことばを正しく聞き分けられているかチェックする。 (発音できなくても、正しく音素を理解し、ひらがなで表記できるか。そもそも間違っ覚えていないか) (参考文献 ホームページ：「ネットで学ぶ発音教室」国立特別支援総合研究所)</p> <p>③ サ行音については「ソ」が比較的正しく構音できていたので、まず「ソ」から練習を開始。 ・単音を練習→単語（語頭、語尾、語中）→短文→長文→日常生活の中で→無意識でも可 (参考図書：「構音訓練のためのドリルブック」協同医書出版社)</p> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>① カ行音については、練習してすぐに改善し、日常生活でも定着した。</p> <p>② 例：「そうじ」の絵を見せて「<u>そ</u>うじ・「<u>し</u>ょうじ」と発音し、どちらが正しいかを判断させる。 →全て正解できたので、発音だけの問題と判明</p> <p>③ 発音の練習では、Sインジケーター（soの子音が正しく出れば、針が振れる）に本児は大変興味をもち、単語の発音の確認などに使った。現時点では「ソ」の発音練習は、単語・短文レベルで行っており、本児が意識していれば、かなり正確に発音できるようになった。ただ、本人が気を抜いているときは「ショ」に近い発音になることもまだ見られる。言い直すときは意識するためか、かなり強い呼気で「ソ」を発音している。今後、正確に発音できるようになれば、もう少し弱い呼気でも発音できるように導きたい。</p> <p>※ 発音の練習の前には簡単な「お口のたいそう」「あいうべたいそう」などを並行して行っている。</p> <p>※ 毎回、本児が話したい話題について、会話する時間をとっている。確かに保護者の心配しているように本児の話す内容がよく伝わらない場面はあるのだが、それは発音以外の、語彙数が少なかったり言葉を間違えて覚えていたりすることが大きい。その反面、興味のある事柄については意外に詳しく知っている。また、本児は話したいという気持ちは強く、うまく説明できない場合は黒板に絵を描いて説明をする。今後は、本児の興味のあることから、少しずつ言葉の知識を増やして行ってほしいと保護者と話している。</p> | |

| | |
|-----|----------------------|
| 小学校 | 考えを整理し、読みや書きの力を高める指導 |
|-----|----------------------|

★対象児童生徒 中学年 (難聴)

★対象児の特徴

- ・分からないことや困っていることを自分の言葉で伝えることができる。
- ・語彙が少なく、文章を書くことに苦手意識をもっている。
- ・物語の読解に慣れておらず、物語のあらすじを順番に並べることが難しい。

★目標

- ・自分の考えを整理して文章に表すことができる。
- ・文と文のつながりを考えて、物語を順番に並べたり、あらすじを考えたりすることができる。

| |
|--------------------|
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 |
|--------------------|

[学習内容と指導方法]

①文章で説明する力を育てる

「お絵かき作文ドリル」(資料①朝日学生新聞社 坂本聰)を使用。絵を見ていない人にも分かるように、描かれていることを説明する。書く時のポイント(1文は30~40字くらいで書く、など)が記されており、それをヒントにすると書きやすいようになっている。

- (1) 絵をよく見る。
- (2) はじめに全体のイメージを説明する。
- (3) 上から順番に、色、形、様子等を詳しく説明する。
- (4) 書き終わったら音読する。
- (5) 解答例を読み、共通点や相違点を見つけ修正する。



資料①

②物語を順番に並べたり、あらすじを考えたりする力を育てる

- (1) 4コマ漫画(資料②③学校図書 国語4年下「これであなたも作家になれる」抜粋)の構成(起承転結)について知る。
- (2) 4コマ漫画を読み、4コマ目の吹き出しに言葉を入れる。
- (3) 4コマ漫画の1~3コマ目を読み、4コマ目を想像して絵と吹き出しと言葉を書く。
- (4) 4つの絵をよく見て順番に並べ、起承転結を意識して、物語のあらすじを考える。



資料②


[児童生徒の様子、成果]

★文を書く時のポイントが記されていることで、書くことへの苦手意識が軽減し、繰り返し取り組むことができた。文の構造に慣れると、大事なことを落とさずに簡潔な文で表せるようになった。

★絵をよく見たり、起承転結を考えて「始まり→続き→急な変化→終わり」になるように並べ替えたりして、あらすじや吹き出しに入る言葉を考えることができた。



資料③

| | |
|---|------------------------------------|
| 小学校 | 自己の障害認識を促し、担任と連携してコミュニケーション力を高める指導 |
| <p>★対象児童生徒 高学年 (感音性難聴)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書が好きで、様々な知識を豊富に持っている。 ・通級の時間では、自分の意見を積極的に伝えることができる。 ・発表時の声が小さく、友達に伝わりにくいことがある。 ・通級の時間では分からないことがあったら聞き返すことができるが、小学校では聞き返すことが難しく、曖昧なままで終わらせることがある。後で、担任に聞きに行くこともある。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞こえにくさによる生活の困難さについて、効果的な支援方法を考える。 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>『読売 KODOMO 新聞』</p> <p>① 新聞を声に出して読み、内容をつかむ (聴覚に関する記事)</p> <p>教員と交代しながら読み、相手に伝わる声の大きさを考えるようにした。また、新聞に載っている機器やコミュニケーション方法についても学習して知識を増やした。</p> <p>② 教員と意見交換をする</p> <p>自分に置き換えて考えたり、自分の実体験と関連付けて考えたりした。</p> <p>『なんちょうりかい (難聴理解) かるた』 発行 / 難聴児支援教材研究会</p> <p>① かるたを通して自分の困難さについて考える</p> <p>かるたの内容が自分に当てはまるか当てはまらないかを判断し、カードを振り分けた。その後、当てはまるカードはノートに書き写し、具体的な場面をノートに書いた。</p> <p>② 解決策を考える</p> <p>具体的に書いた困難さに対して、先生や友達にどのように対応してほしいかを考え、支援方法をノートに書いた。</p> <p>→教室の席順について具体的に話し合った。担任の先生に対応していただき、児童が授業を受けやすいと思う席に替えてもらった。しばらくして再度、席順について話し合った。しかし、自分が良いと思った席では、先生の声や友達の声が十分には聞き取れなかった。より良い場所を、児童の聴力と教室環境をふまえて教員と相談して考えた。</p> <div style="text-align: right;">  </div> <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>★生活の中で困っていることを客観的に振り返ることで、具体的な場面を絞り込むことができ、担任の先生のご協力によって、効果的な支援方法を実践することができた。</p> <p>★担任の先生に協力いただくことによって、児童の困難さに気付くとともに支援についても改めて考えもらうきっかけとなった。</p> | |

| | |
|---|--------------------------------|
| 中学校 | 自己理解と障害の受容を促し、コミュニケーション力を高める指導 |
| <p>★対象生徒 (聴覚)</p> <p>★対象児の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 補聴器活用による情報収集やコミュニケーションが可能。外見からは困難さに気付いてもらいにくいいため、卒業後に向けて、自分のことを説明したり、自分から必要な合理的配慮を求めたりするスキルを養う。 コミュニケーション力やメモ力の向上 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて聞き返したり、コミュニケーションツールを活用したりすることができる。 話を聞いてメモを取り、第三者に正確に伝えることができる。 | |
| 学習内容や指導方法、児童生徒の様子等 | |
| <p>[学習内容と指導方法]</p> <p>① 進路先では、自分から必要な合理的配慮を求めて周囲に働きかけていく力が必要になる。なぜ配慮が必要なのか、どのような配慮があれば情報を収集しやすいのか、相手にきちんと伝える力を養うために、まず自分を客観的に見つめなおすところから始めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> マインドマップを書こう…自分を知ってもらおうポイントとなることをどんどん書き広げていく。重なりが多かったところに着目し、自己紹介のキャッチフレーズを考えた。 自分の強みを知ろう…楽しかったことやうれしかったことなどを動詞で付箋に書き出し、thinking、communication、leadership に分類する。付箋が集まったところを自分の強みとして再認識する。 進路先で想定される支援が必要な場面を書き出し、どのように説明すればよいか、紙面上でシミュレーションする。また、行政支援やコミュニケーション支援アプリなどの情報をインターネットで調べ、知っておく。 <p>② 話を聞き取ってメモしたり、新しい言葉を調べたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞記事の切り抜きから、興味のある記事を選択し、先ず教員による読み上げを聞き取ってメモを取る。次に記事に目を通し、聞き漏らしや分からない語句がなかったかをチェックし、不足があればメモに追記する。帰宅後、メモをもとに家族に記事の内容を伝える。 今年の新語や流行語の意味を調べ、まとめる。 <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>① 自分の強みは、様々な面で感覚を受容し、楽しめるところであると再認識できた。希望する進路面にも合っている。現段階ではまだ中学生であることから今後のことを想定しにくく、どのような補聴器購入の助成があるかなど、知らないことも多かった。</p> <p>② 教員とのやりとりの際は、メモを取る手元を見ながらの聞き取りが可能であった。新語など、聞きなれない言葉の聞き取りは教員のほうへ視線を向けて一生懸命に聞いている様子が見られた。防音壁の教室で学習しており、聞き返しなどはなく、聞き取りは良好であった。「スマホシヨルダー」など知らなかった語句をインターネットで調べ、画像を確認することができた。</p> | |

